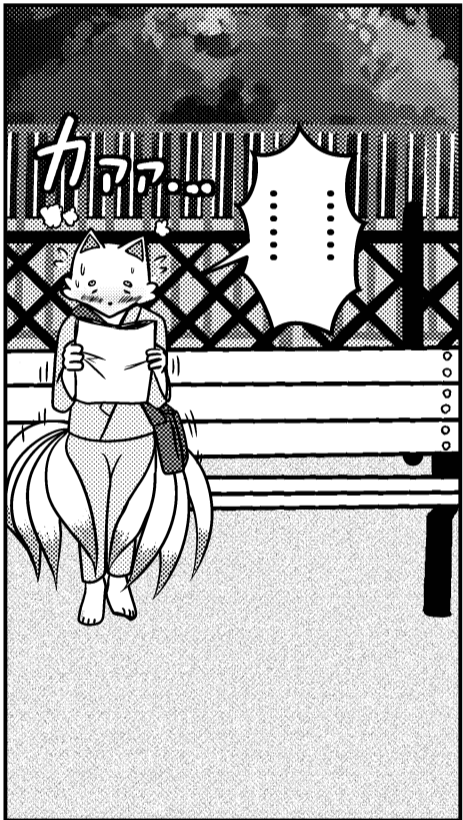
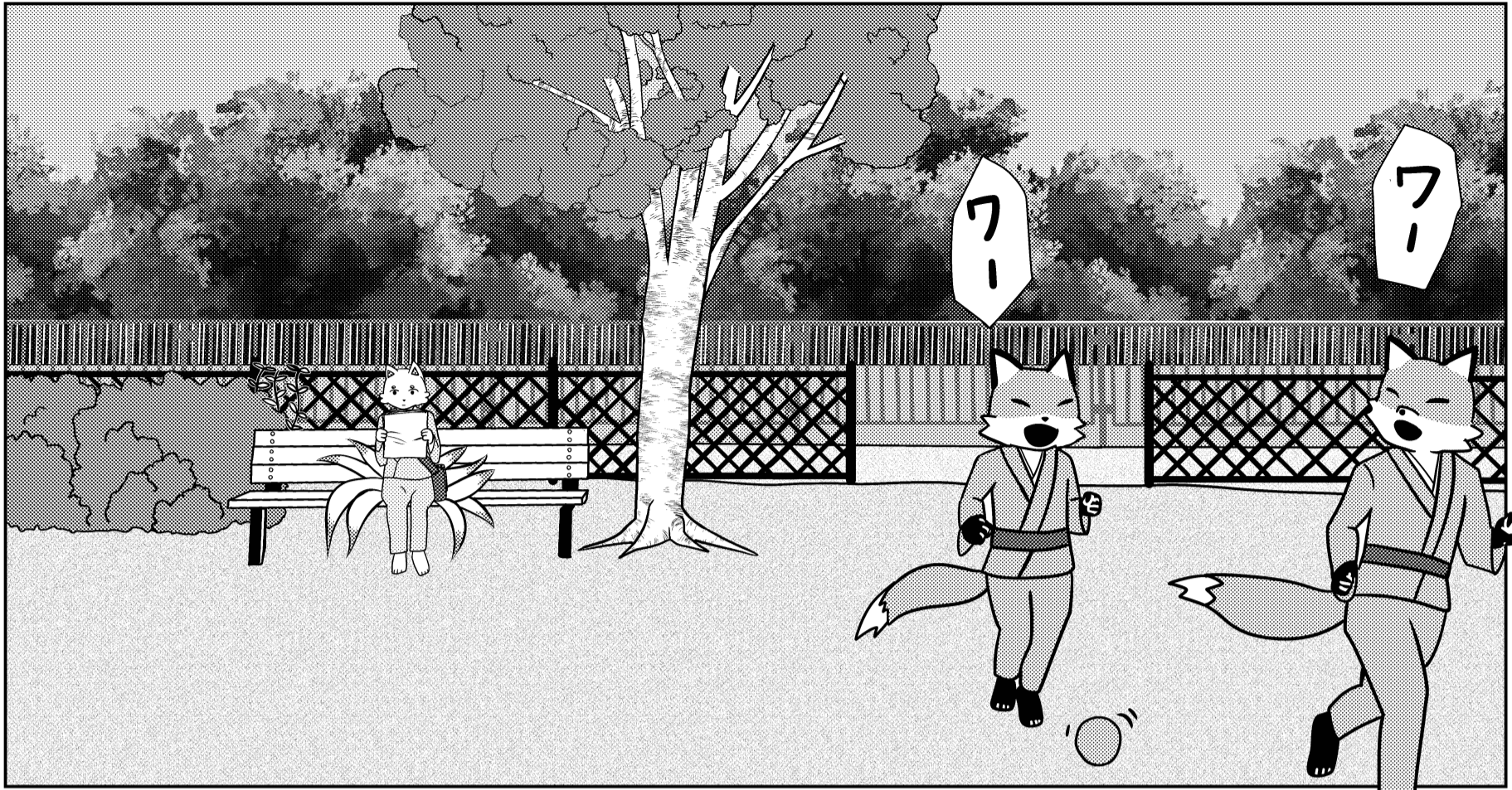
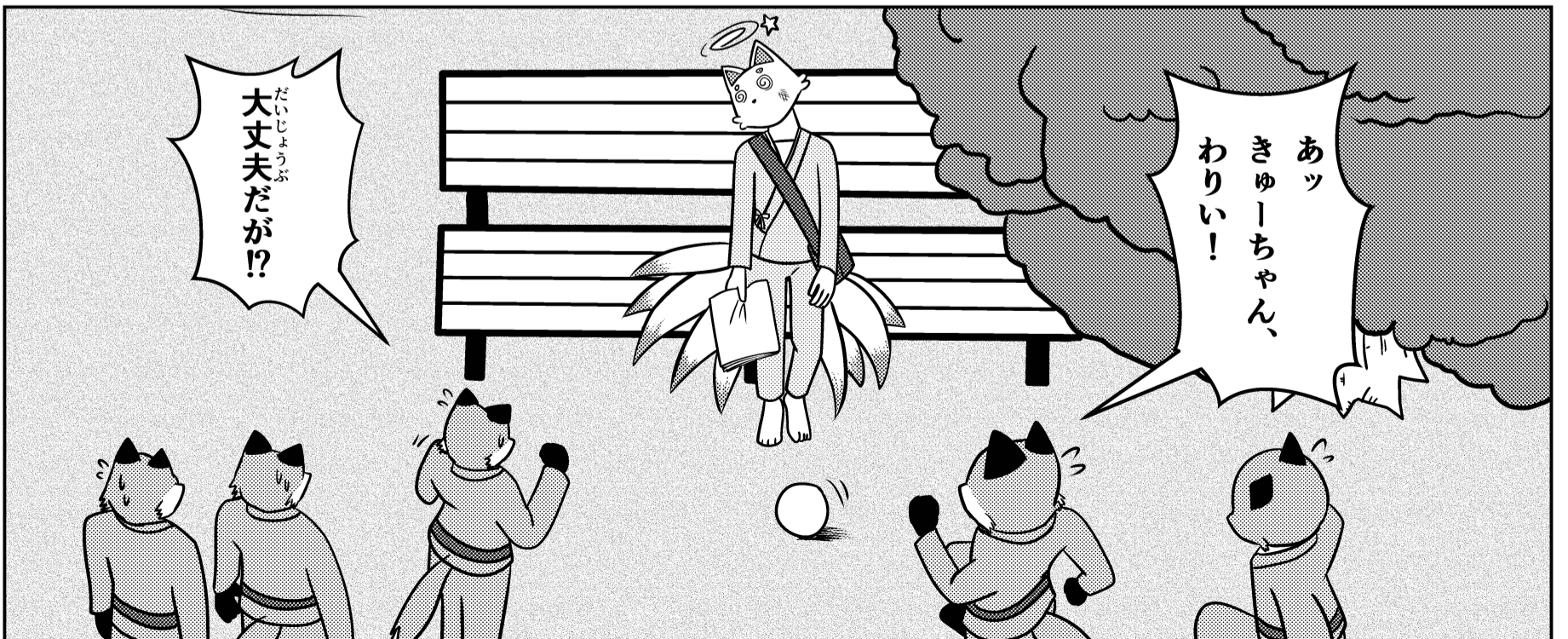
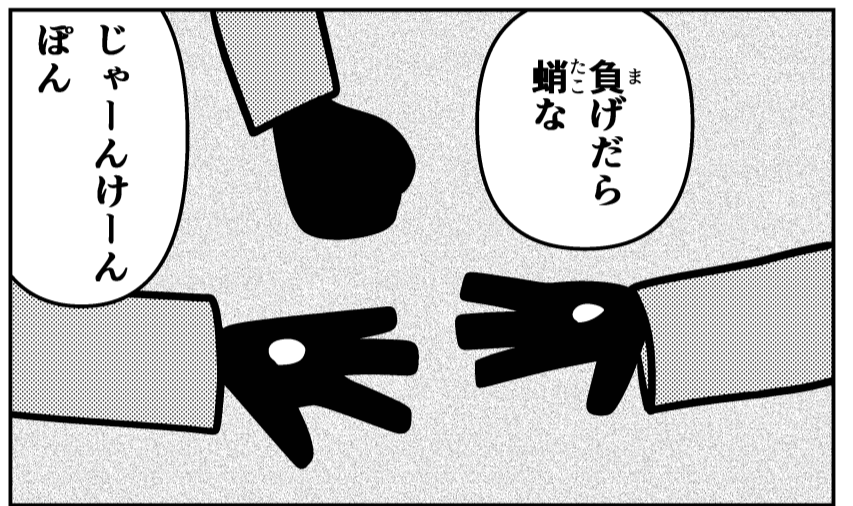
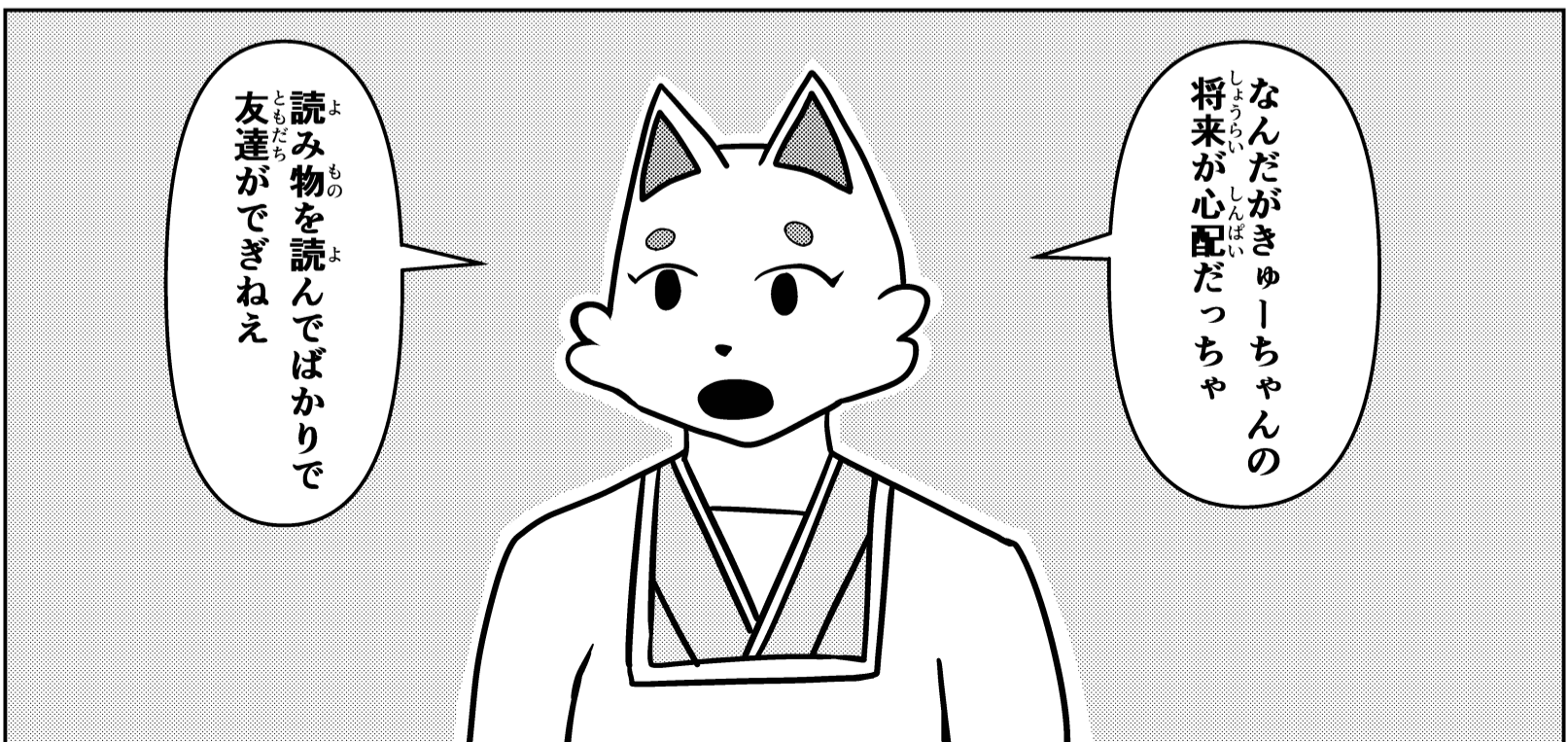
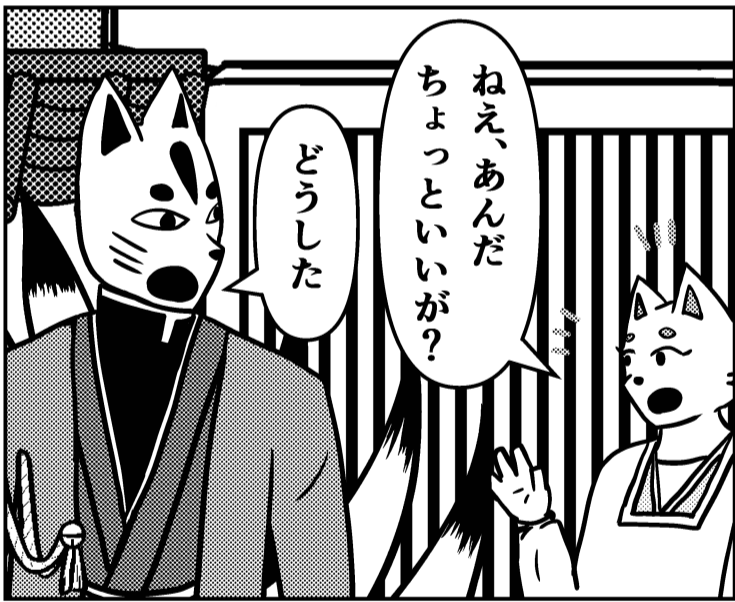
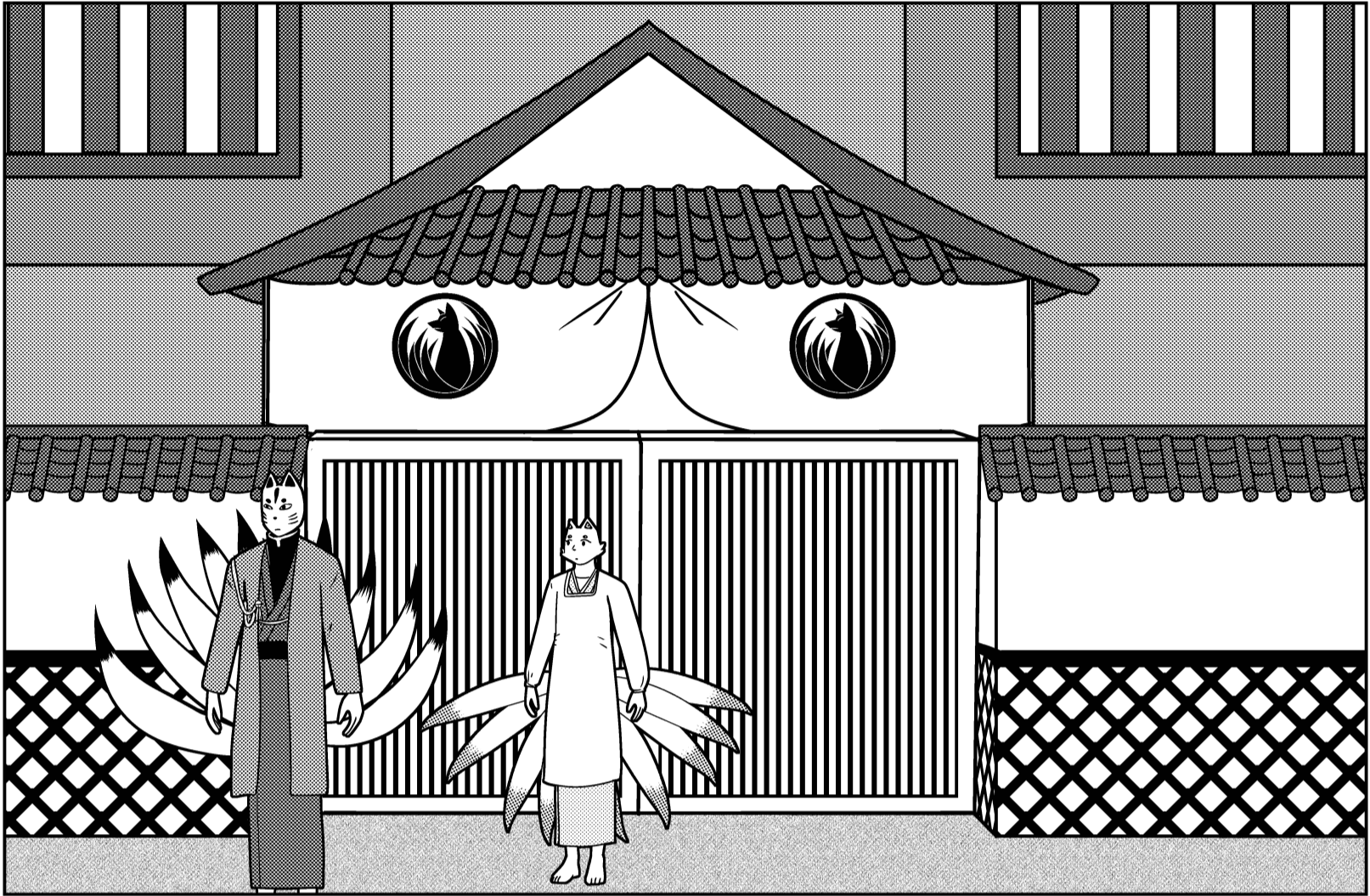


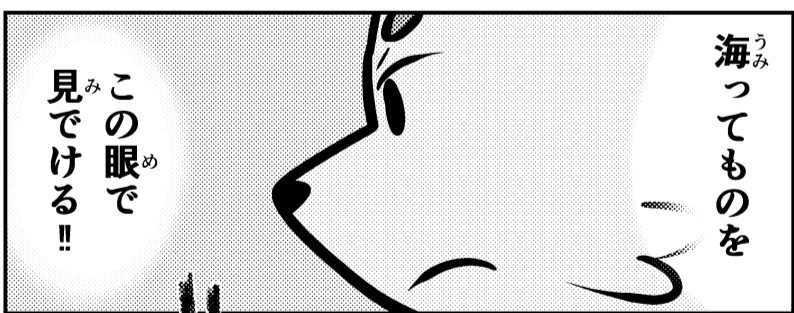
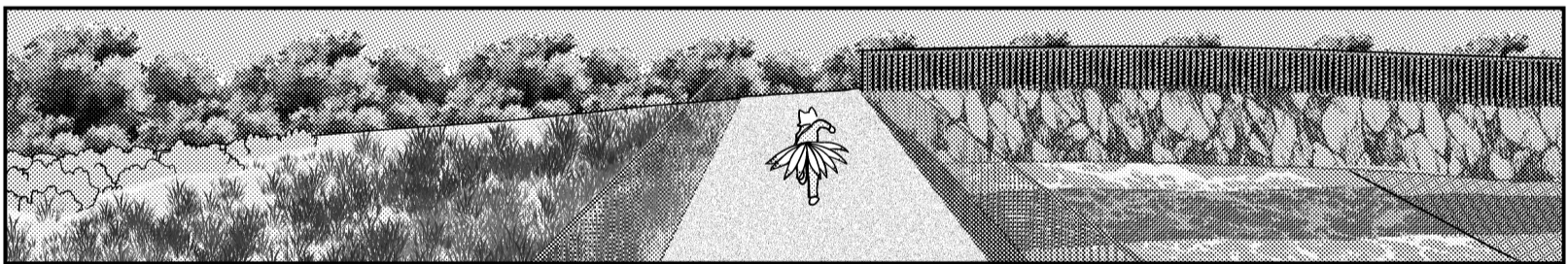
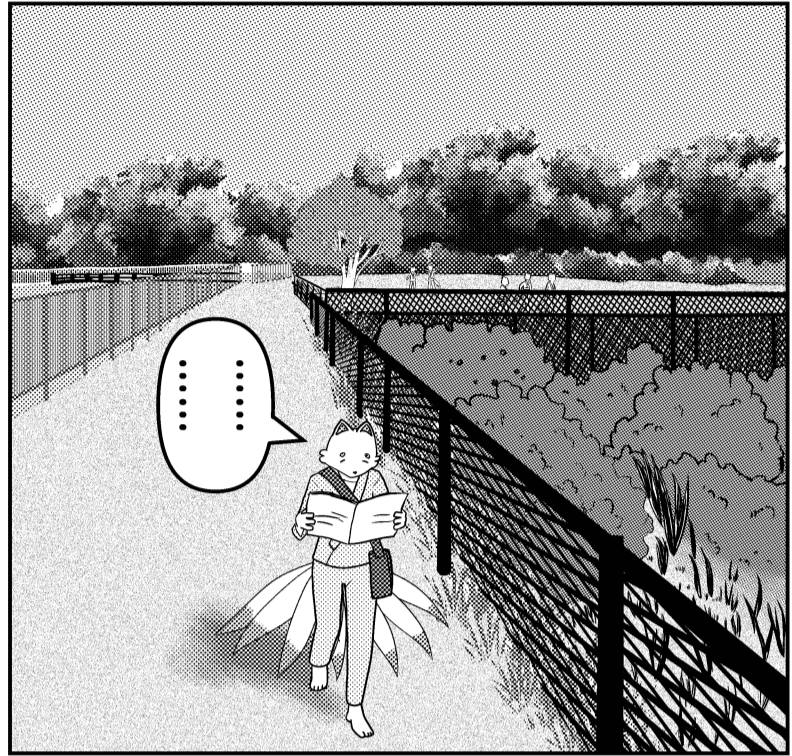
たこがふたたびやってきた

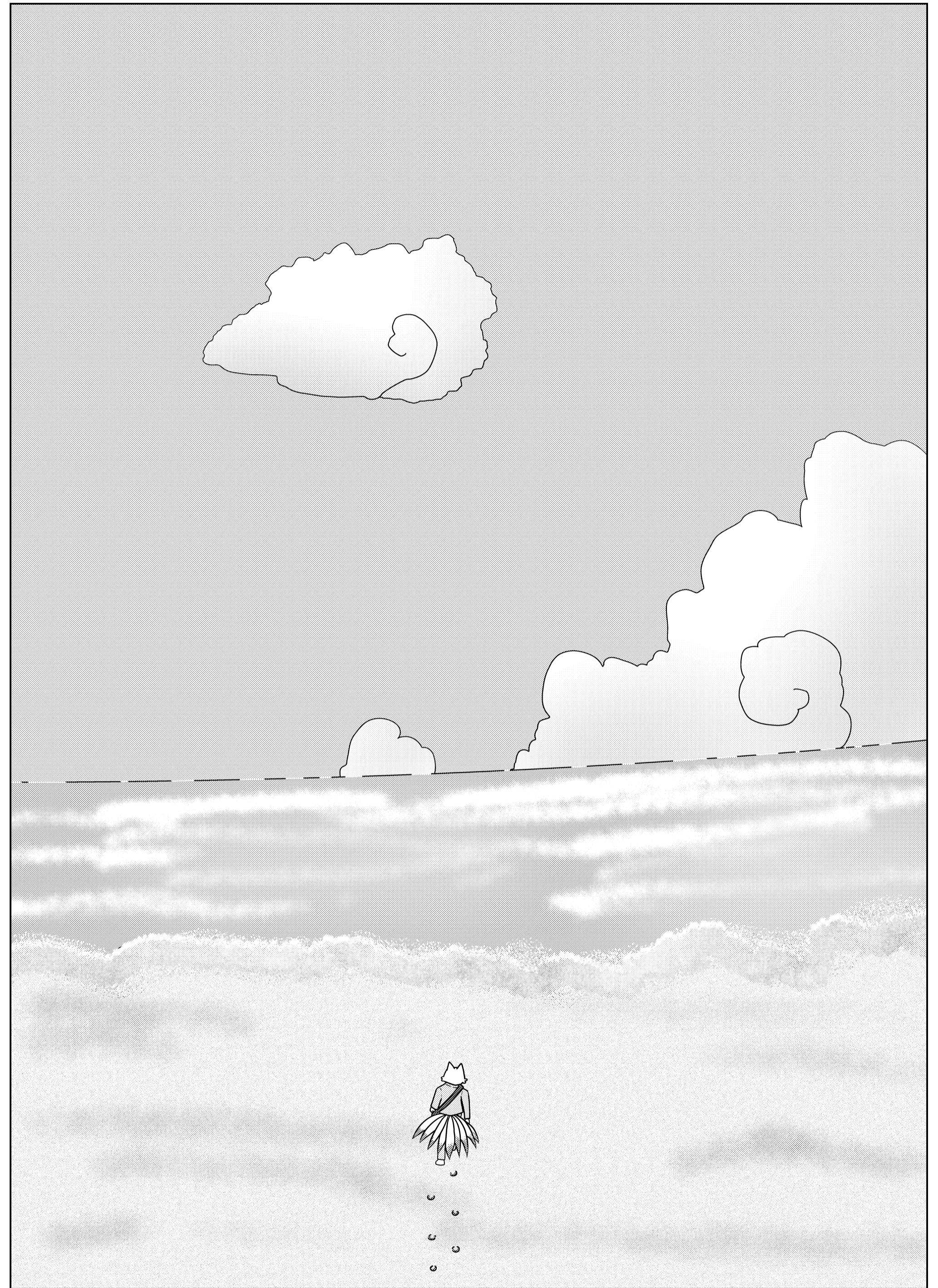


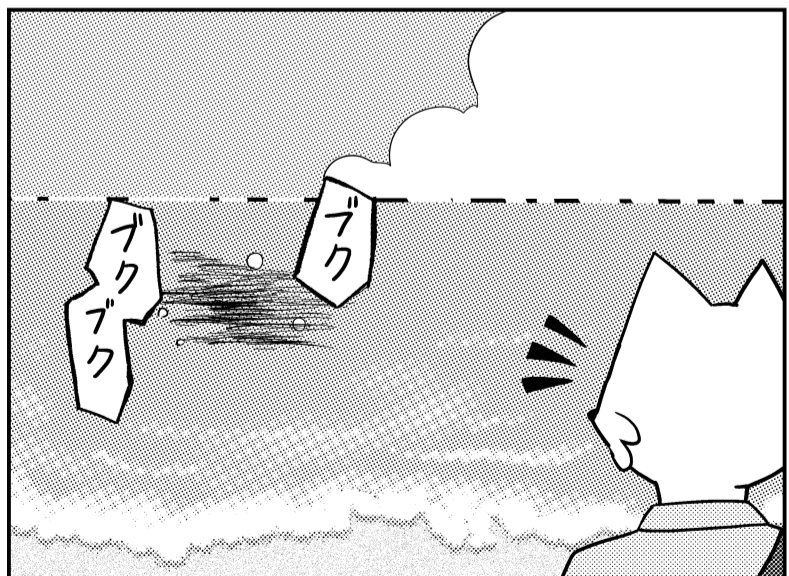
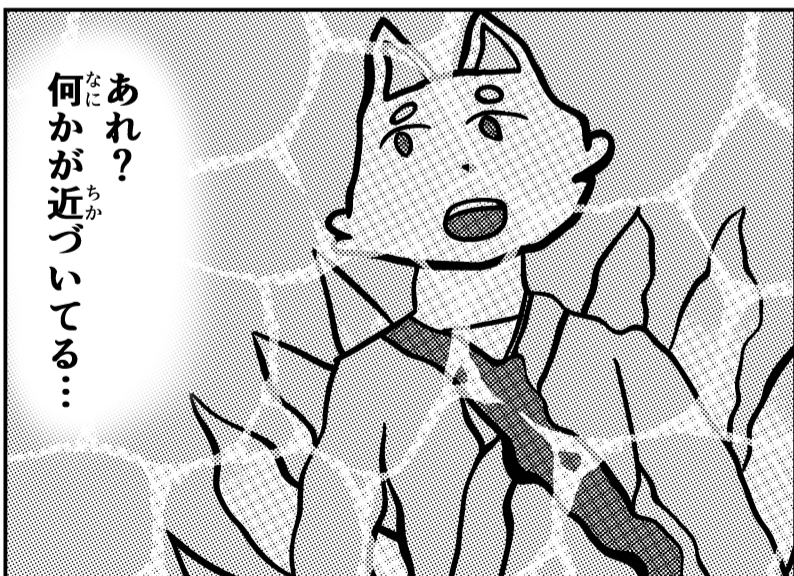


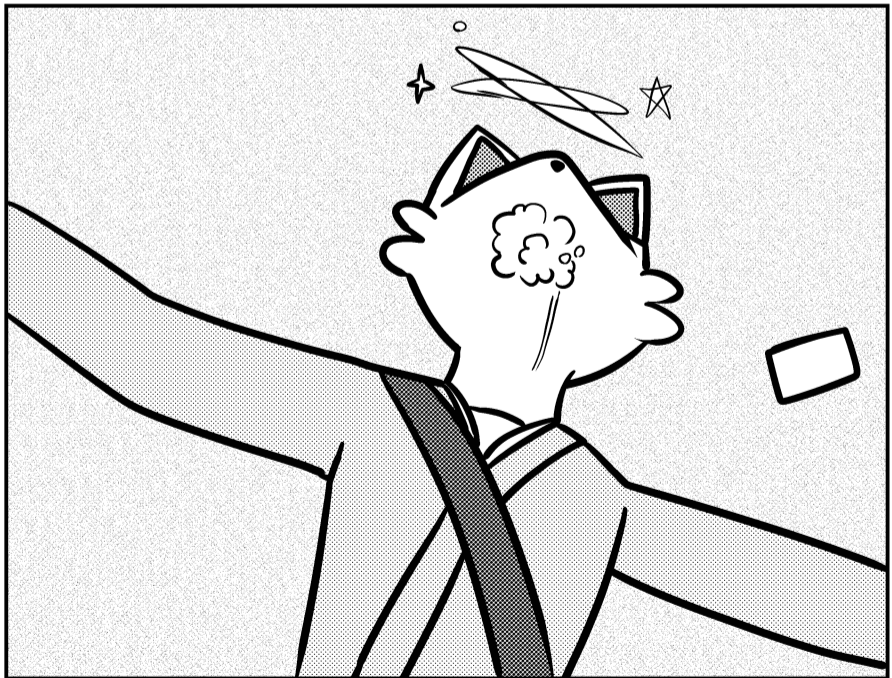
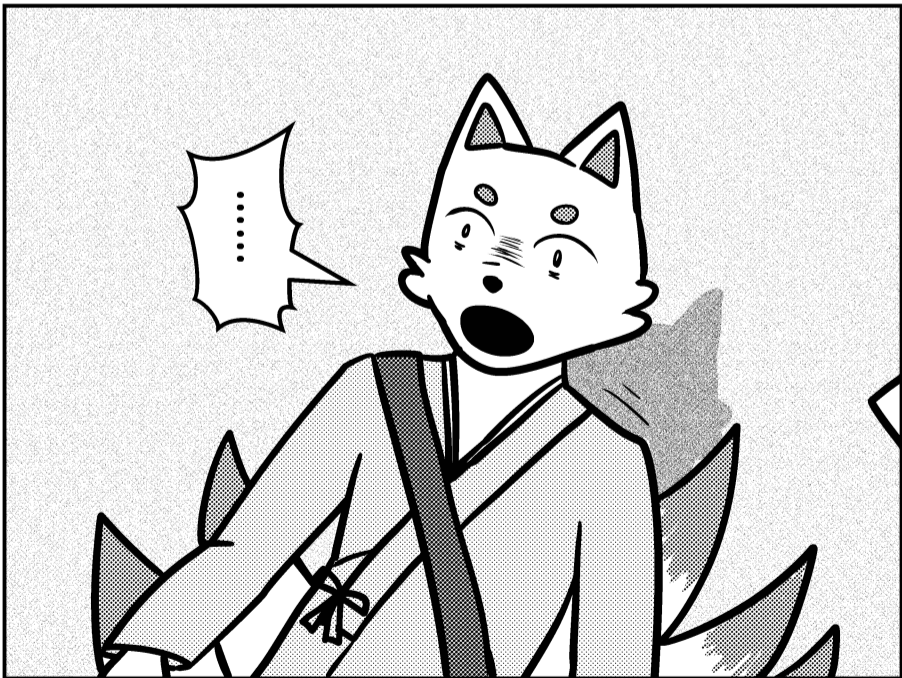
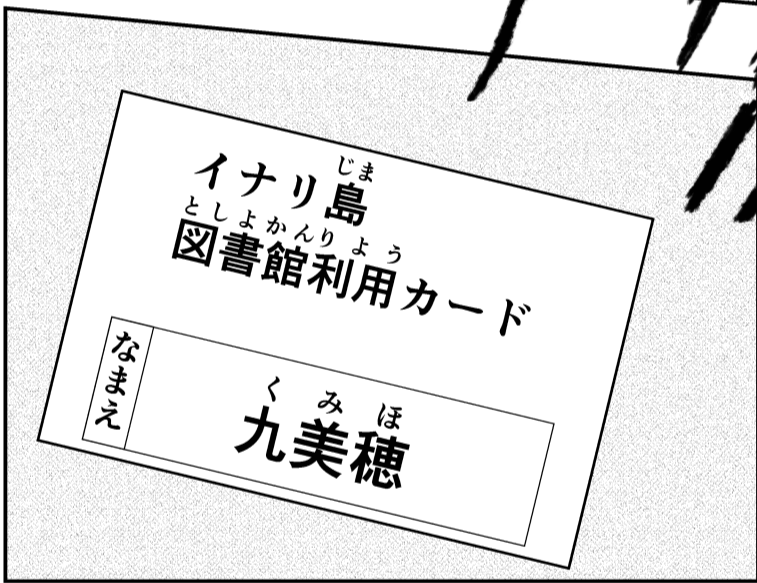
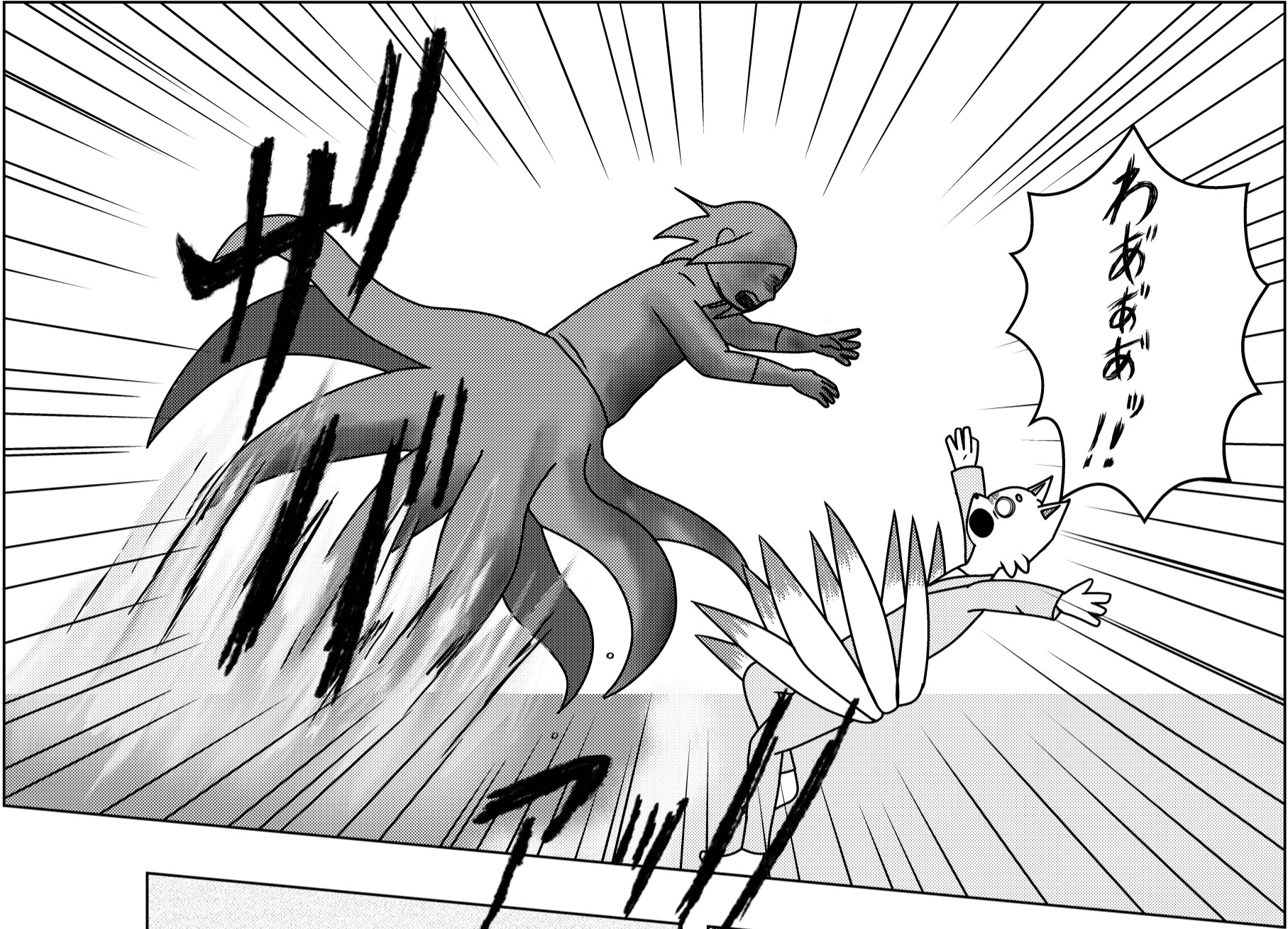


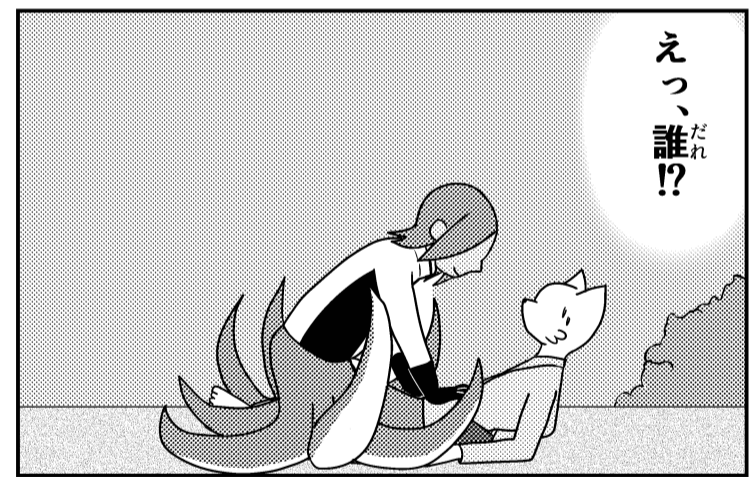
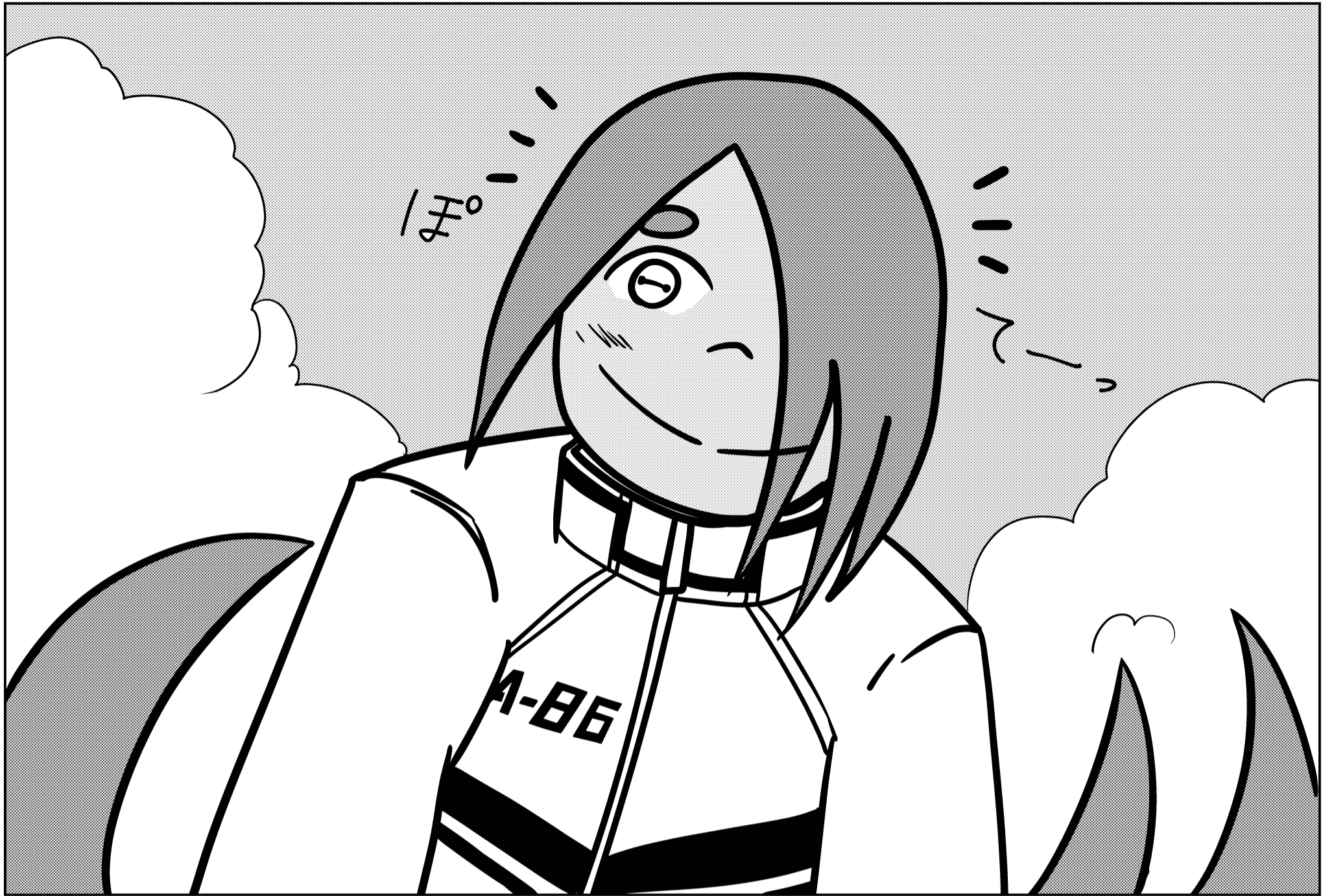


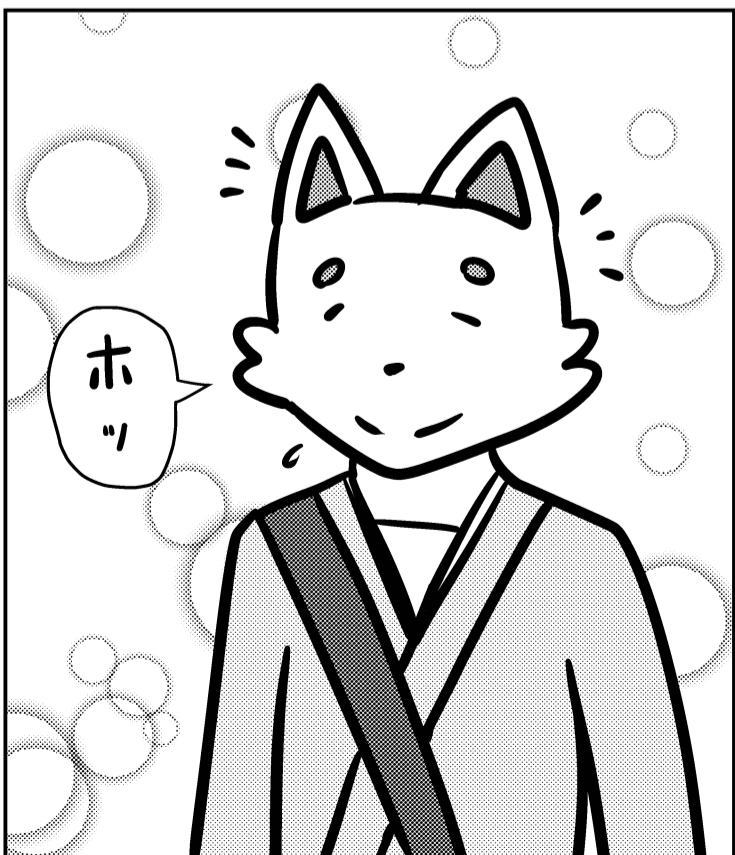
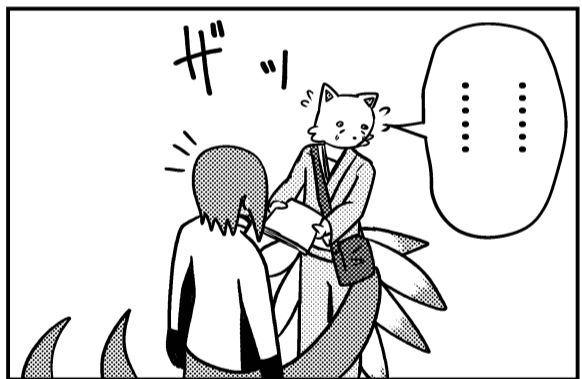
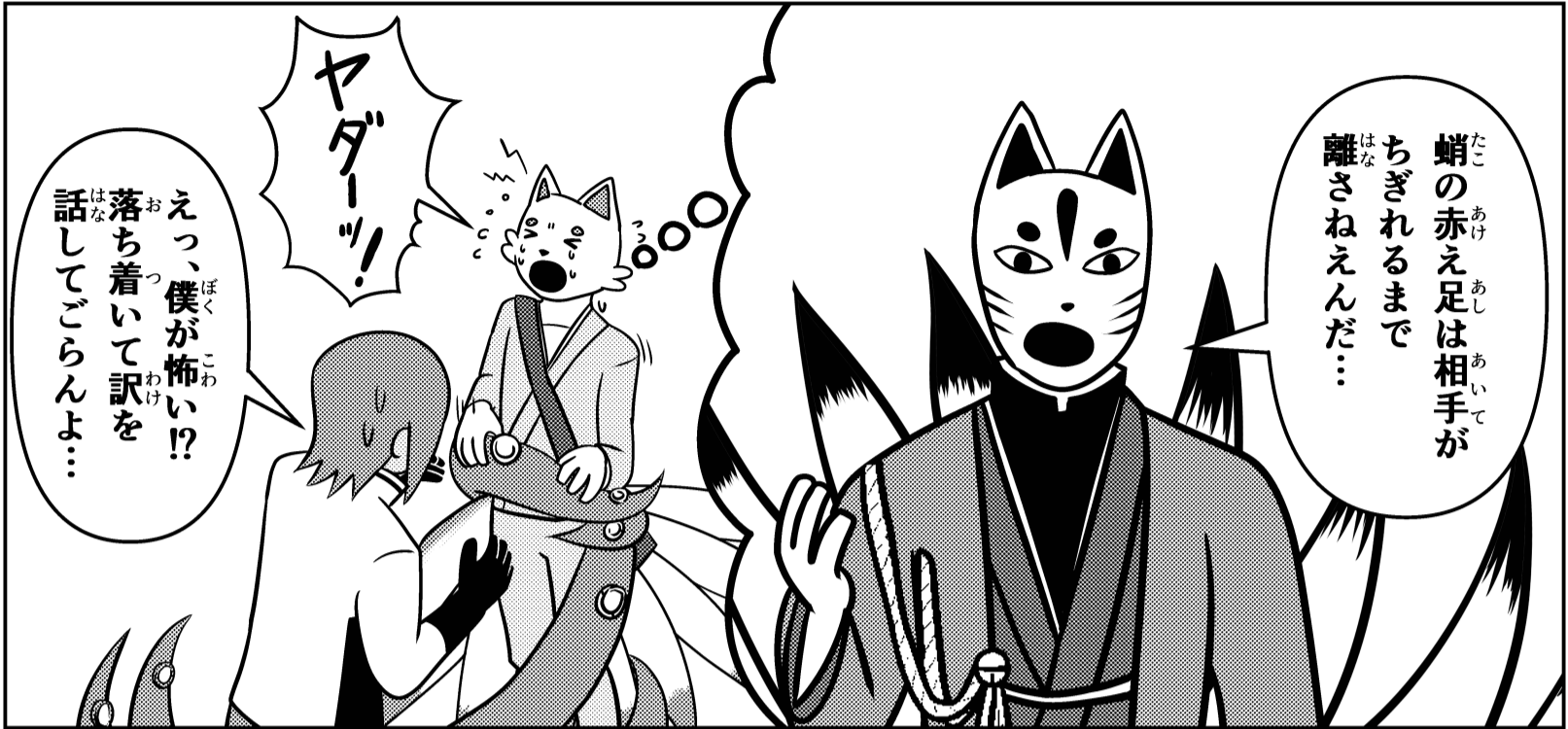














ぼくおとな達に
おしえられたつけ…

妖術で国を滅ぼした
化け狐の話…

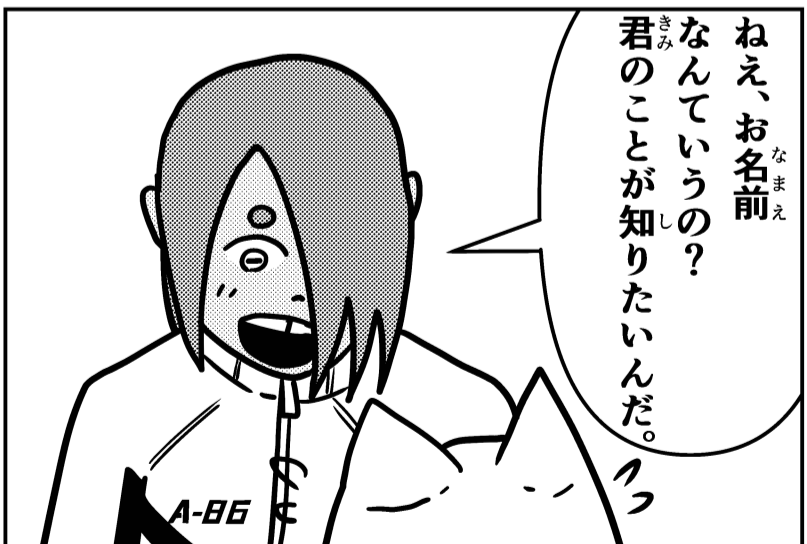


そうだよね!
ただの生き物が
そんなの使えるわけ
ないよ

……



君は妖術を
使うことはできる??

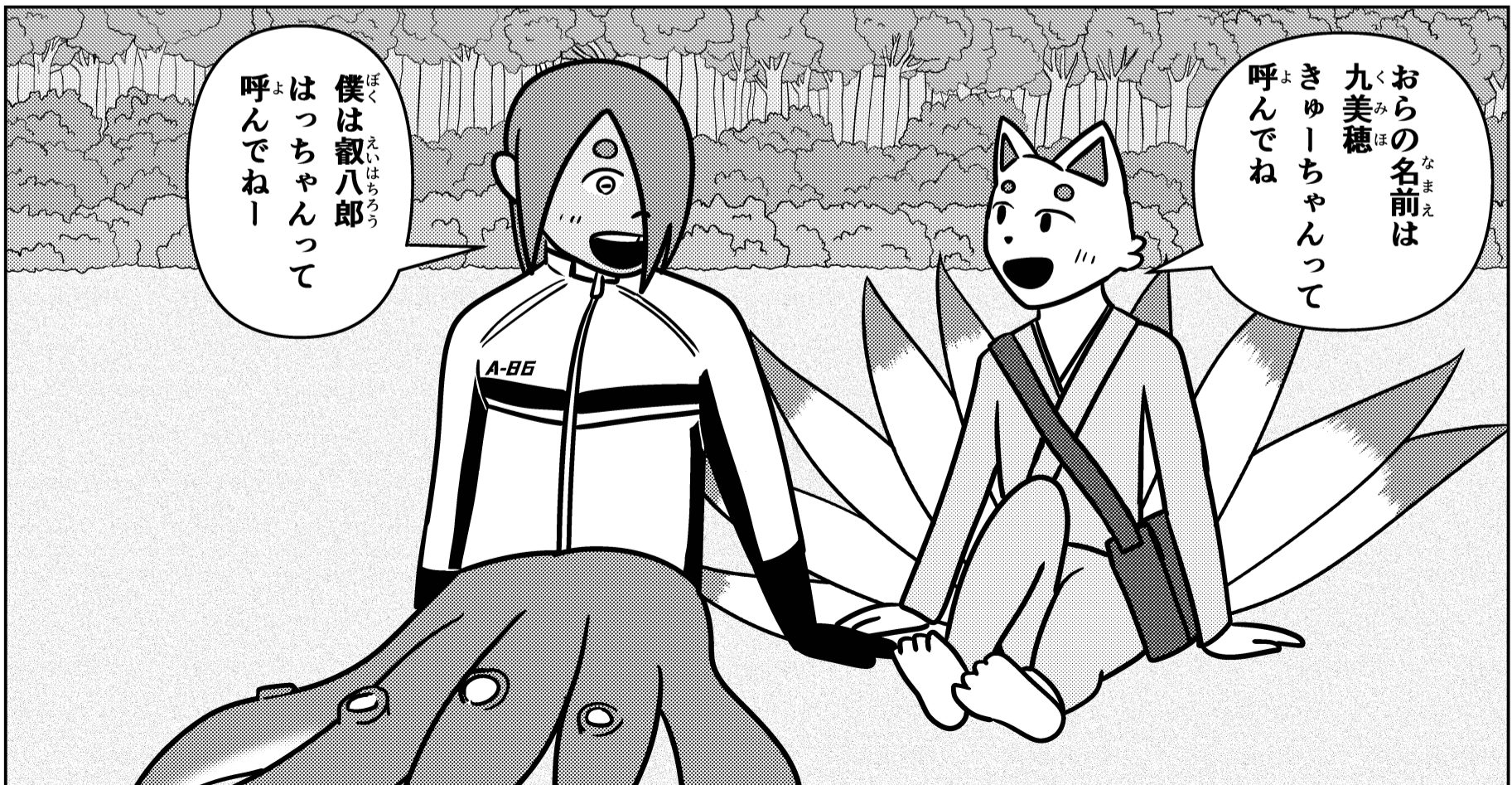
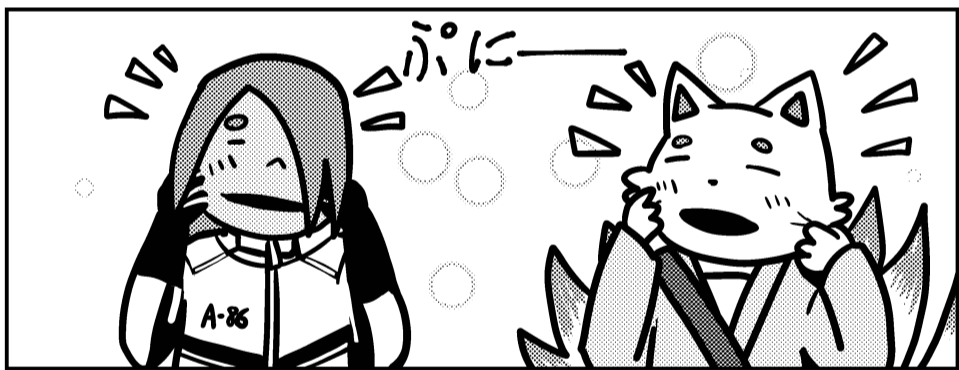
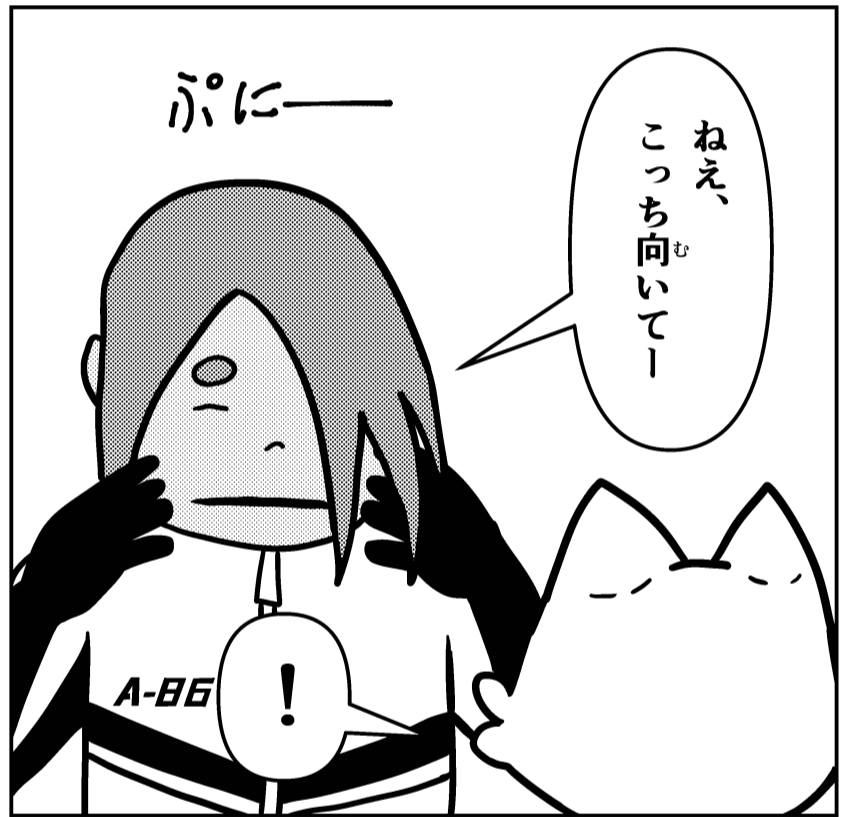
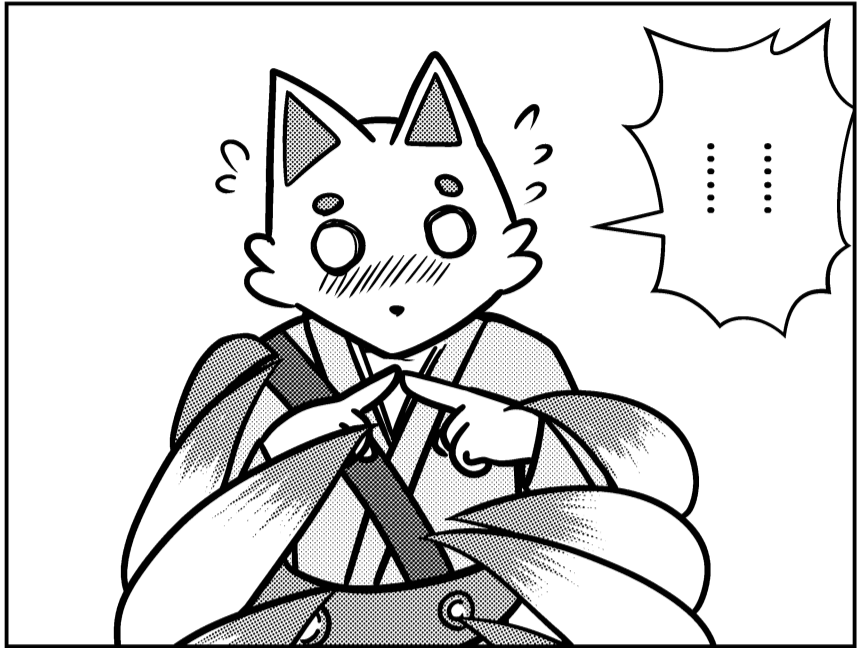
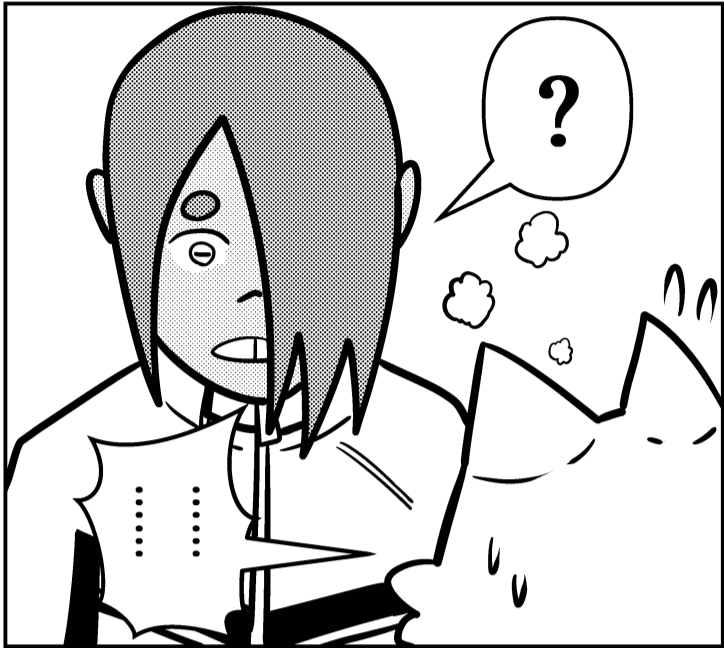


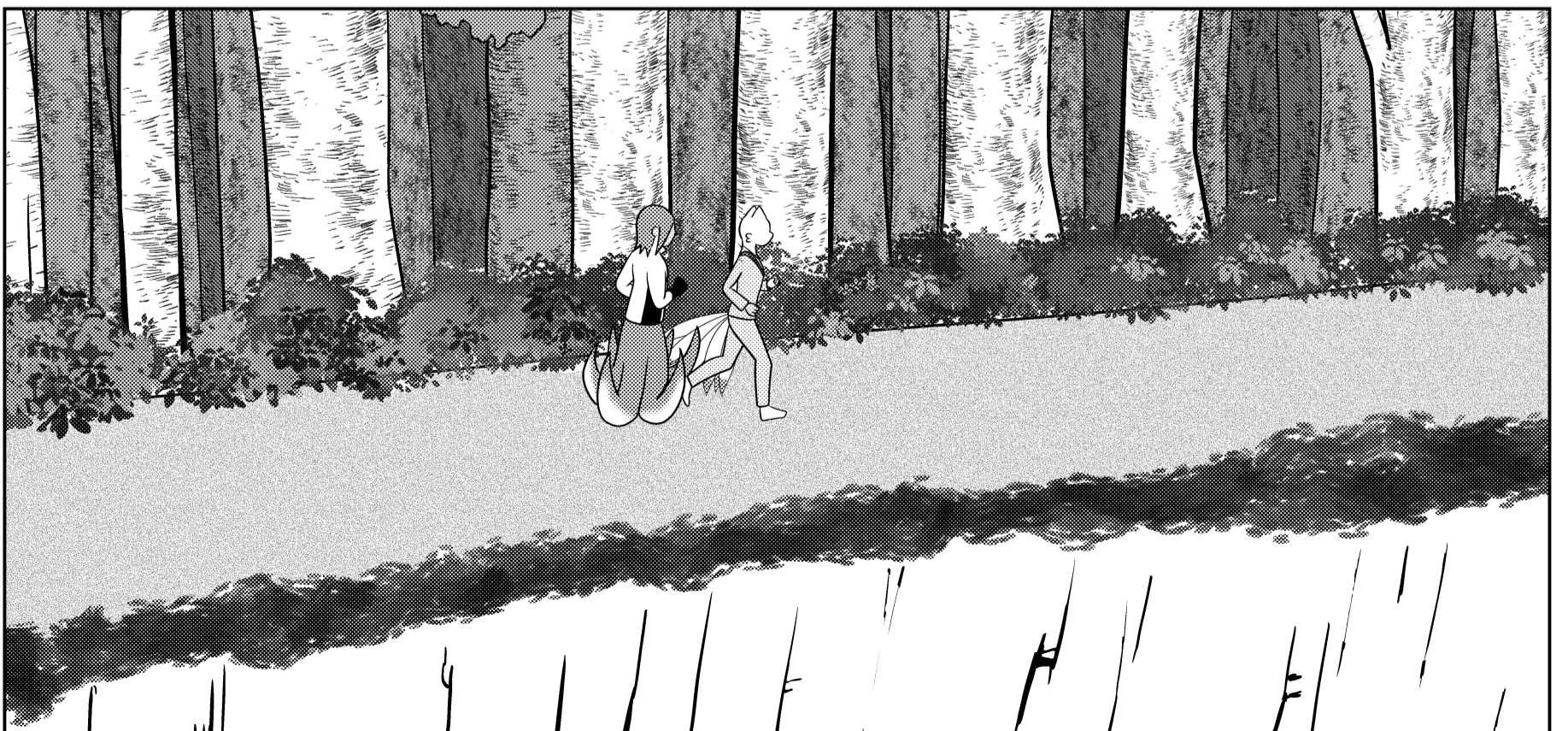
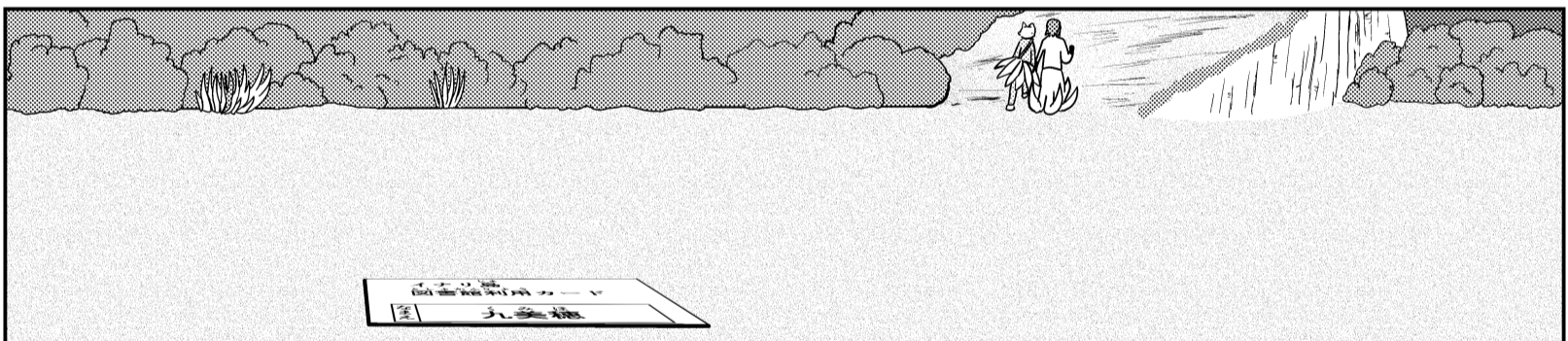
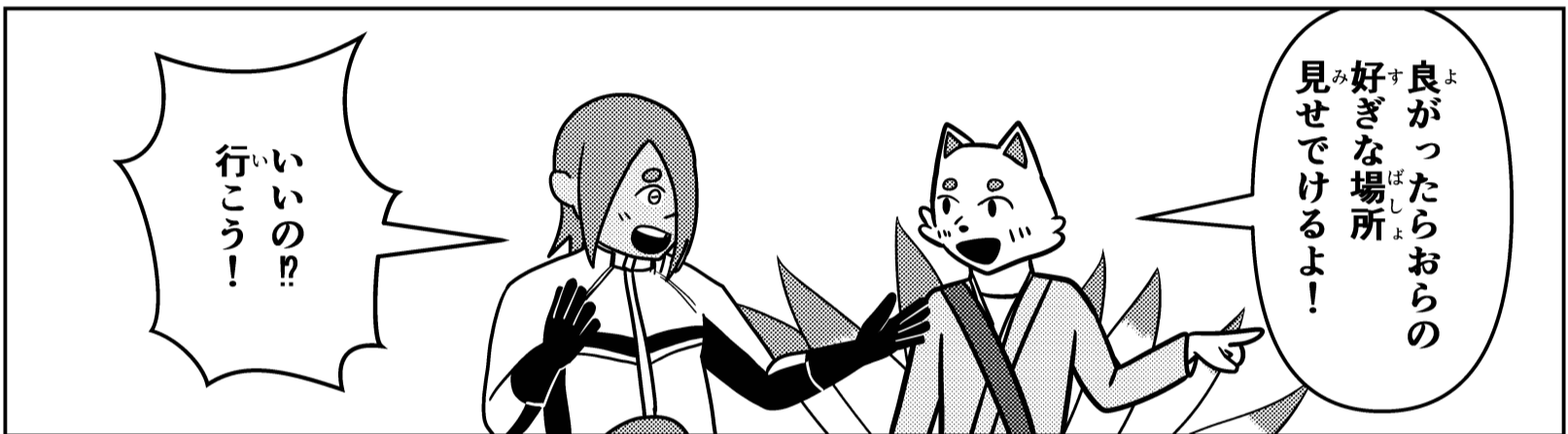
ねえ、お名前
なんていうの?
君のことが知りたいんだ。

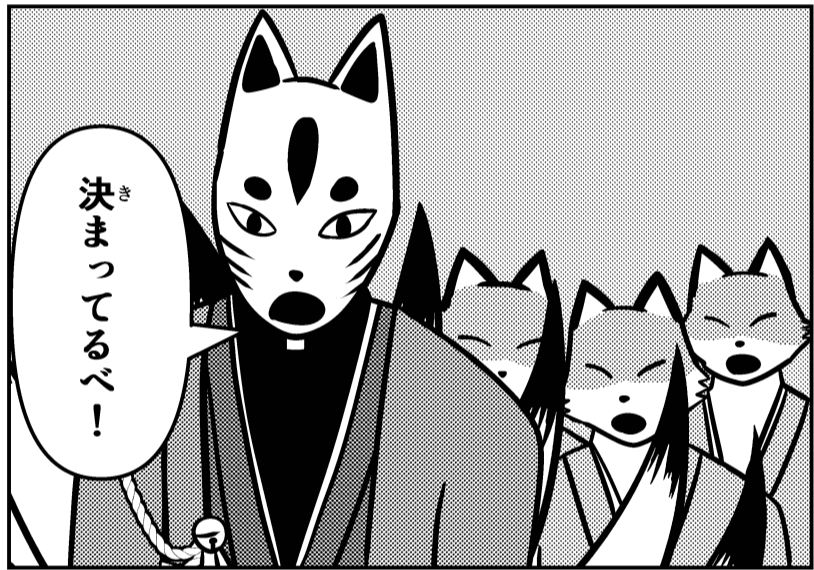
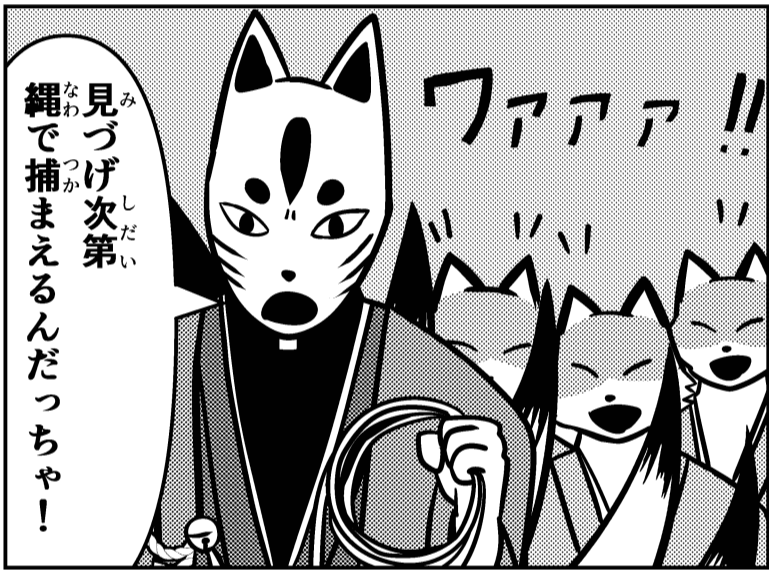


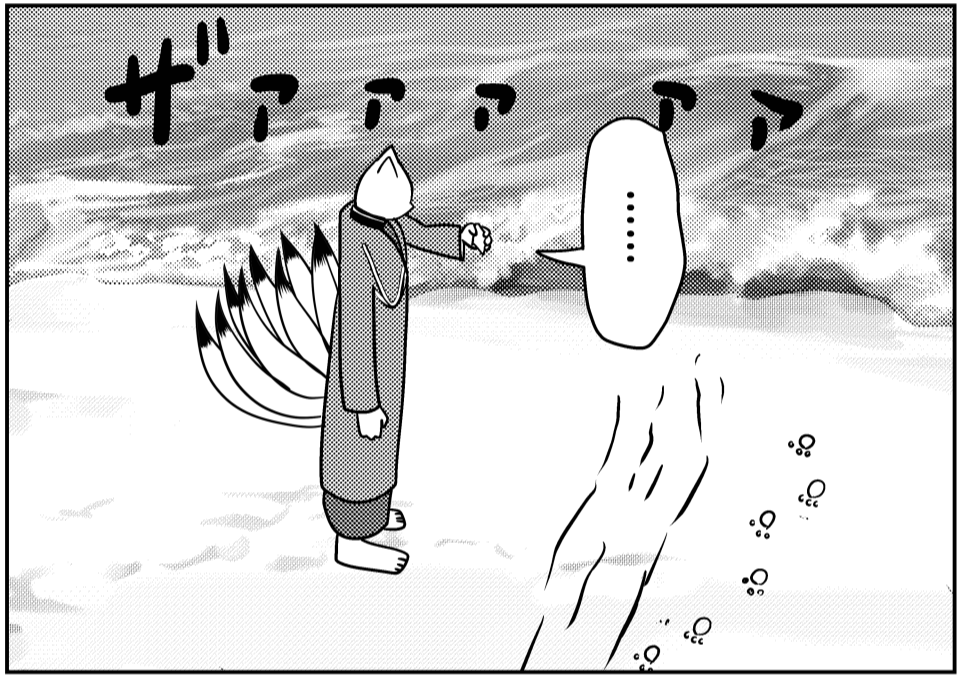
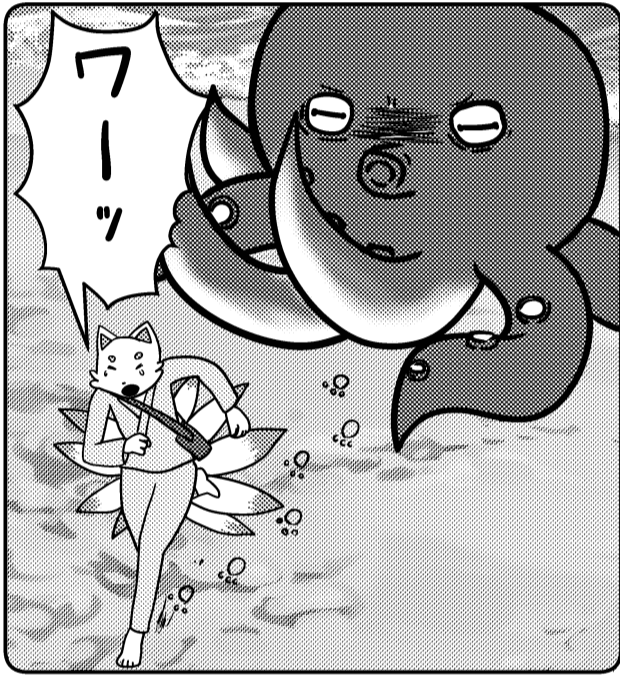
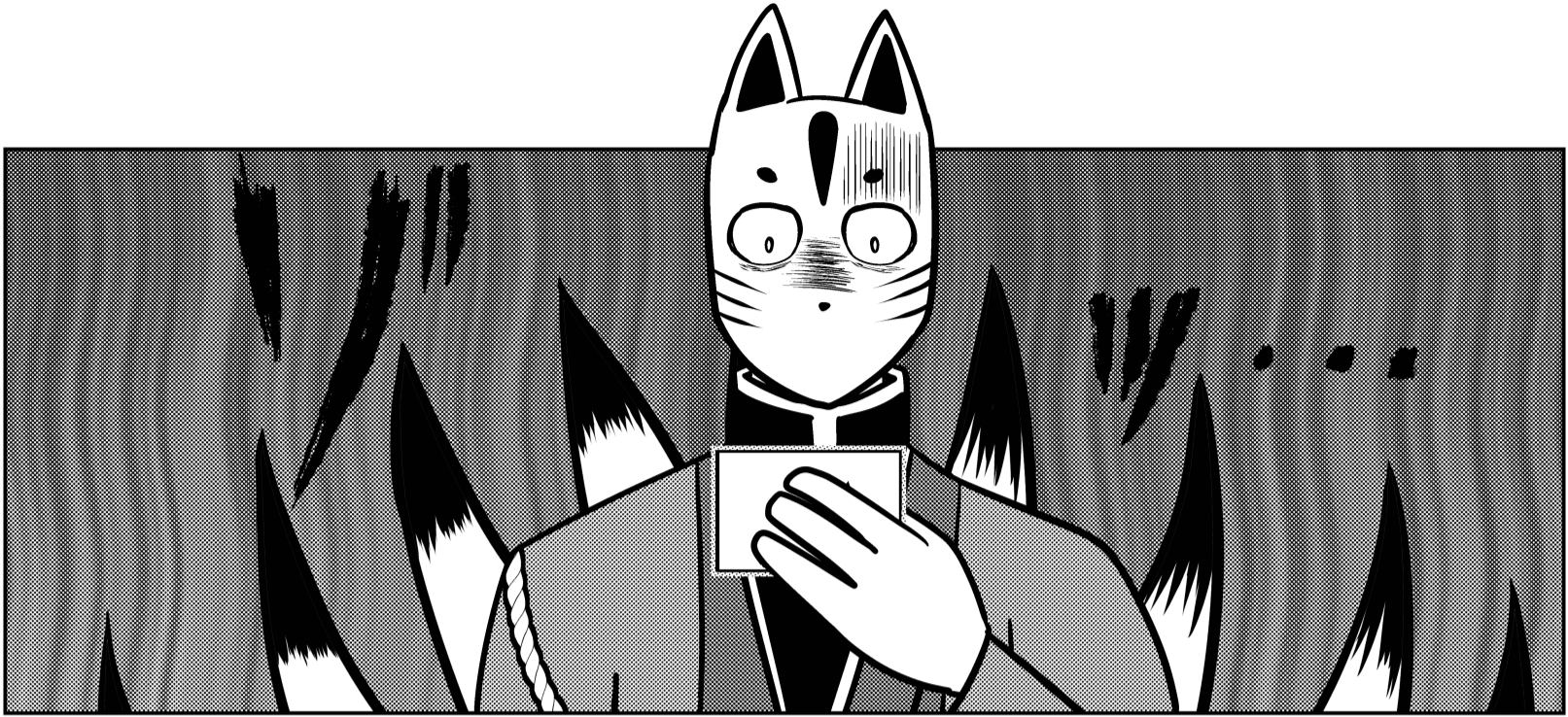
イメージが現実と
乖離しすぎだよ。
おとなってバカだね

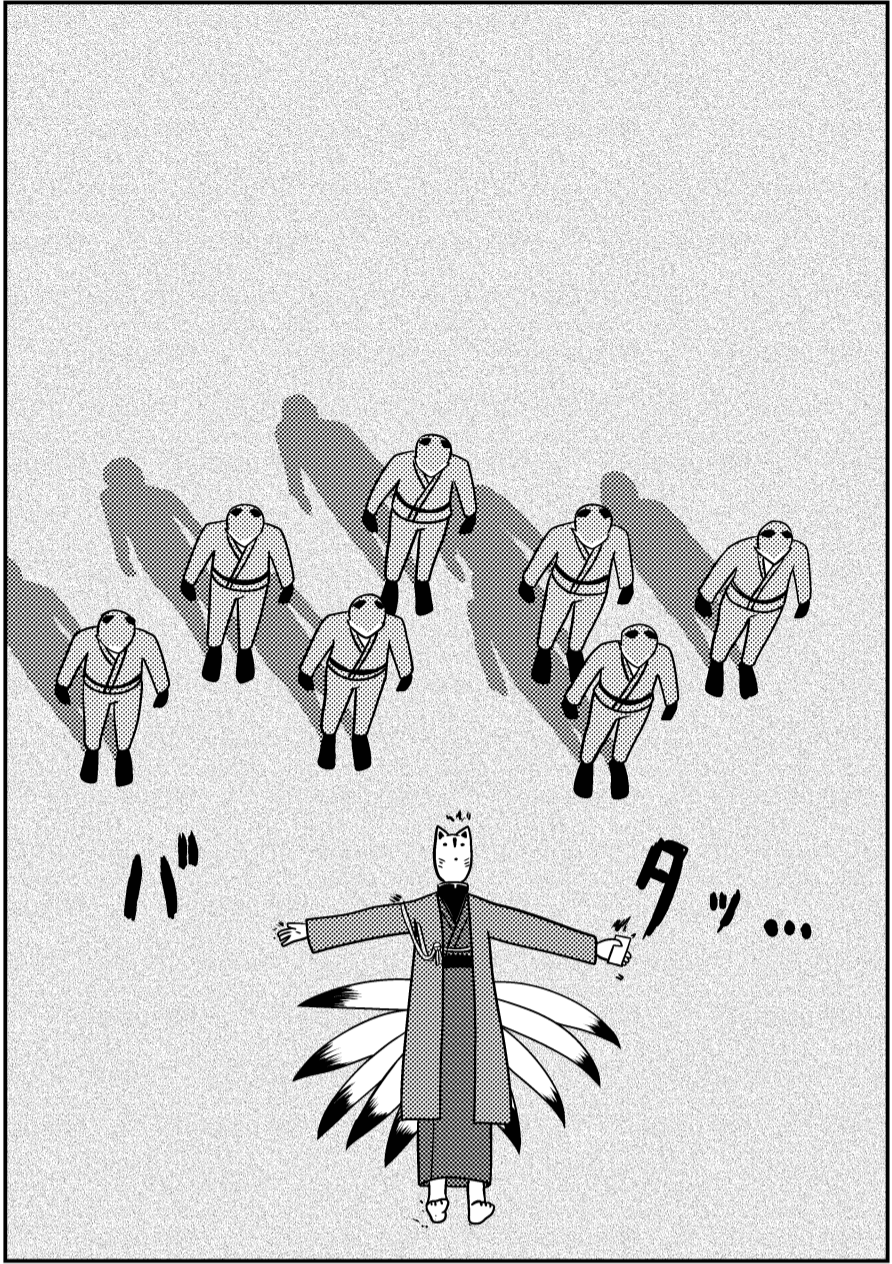
カイ…?

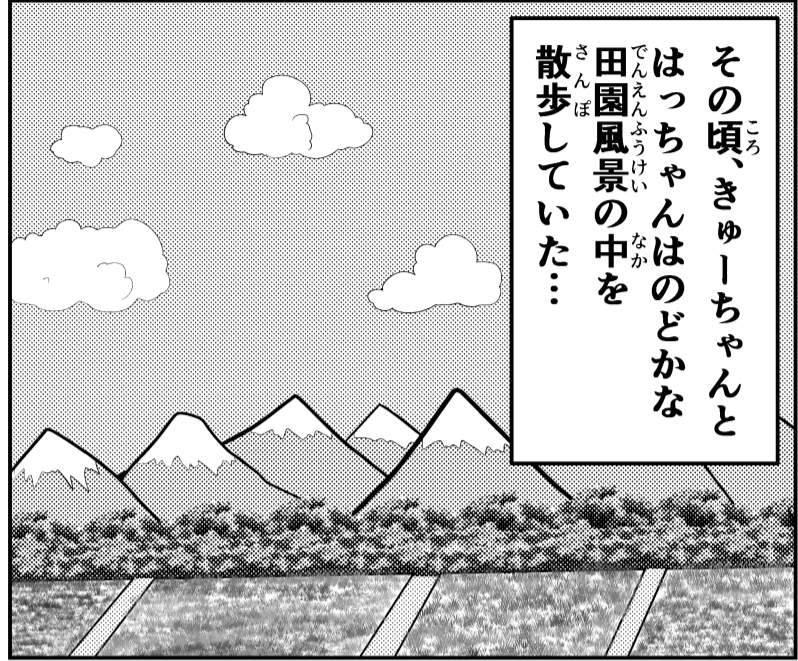


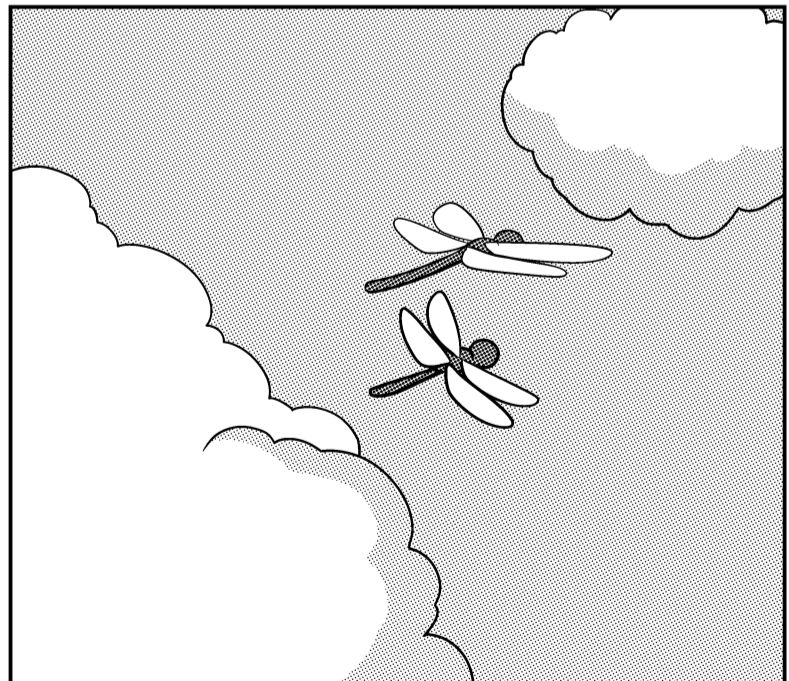
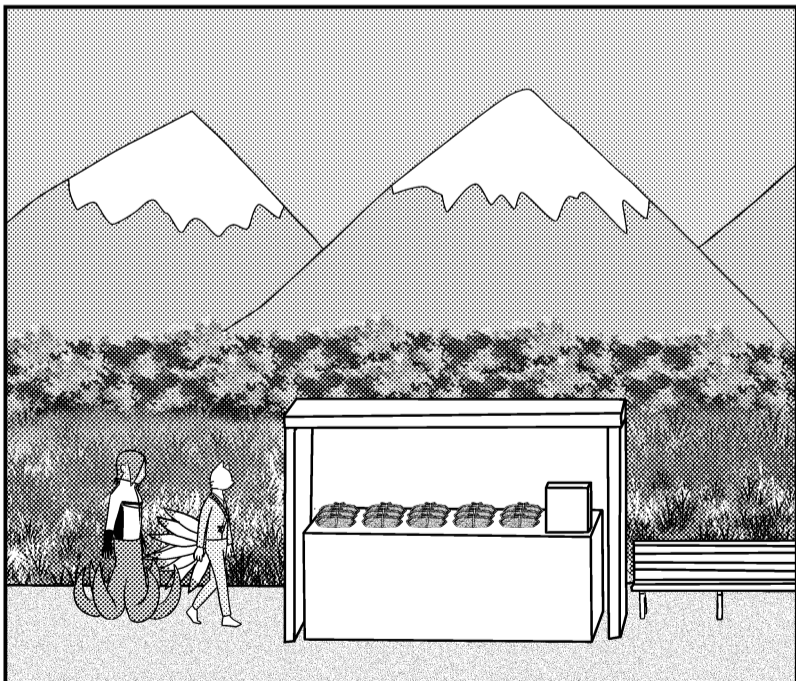
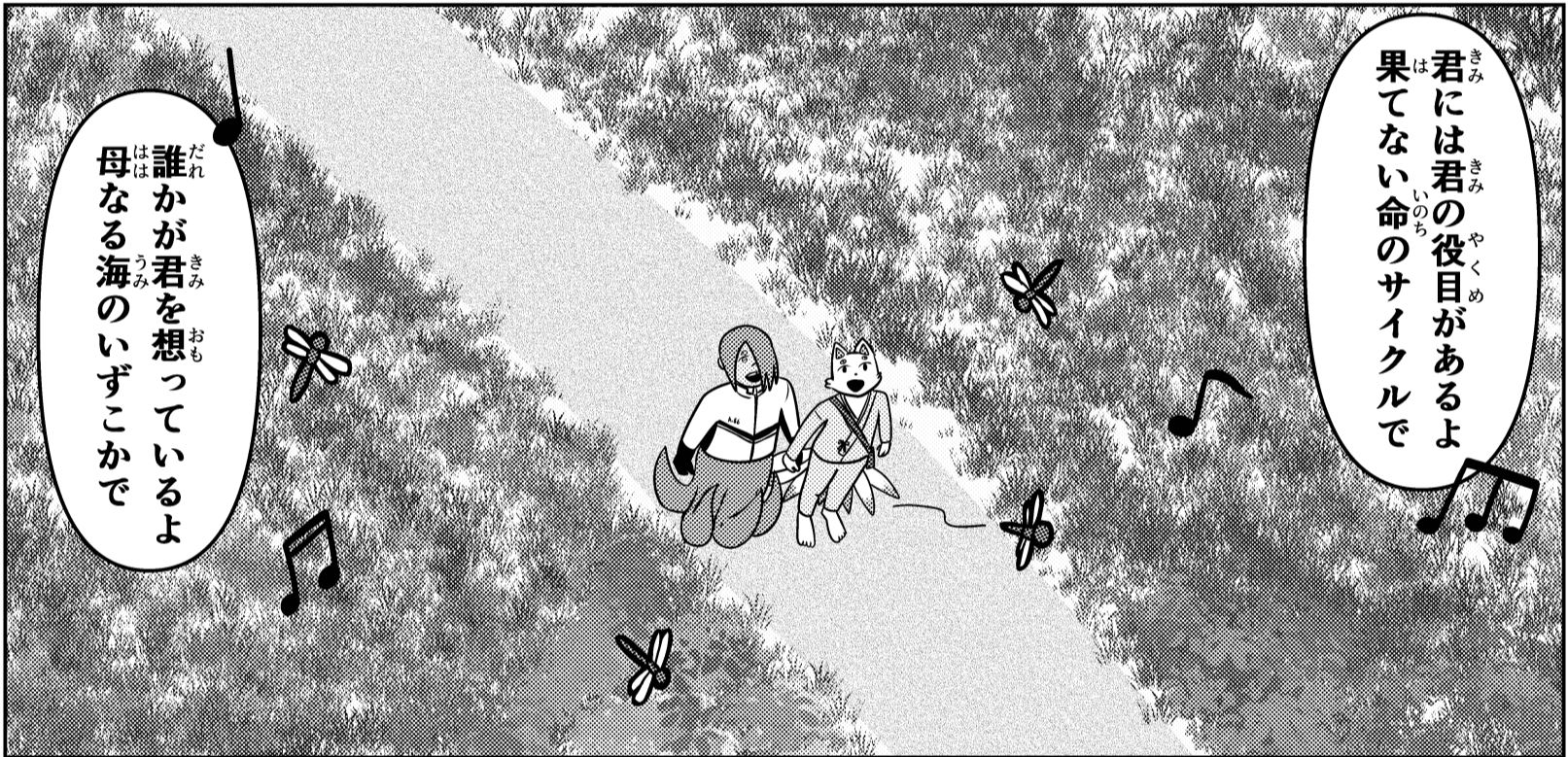


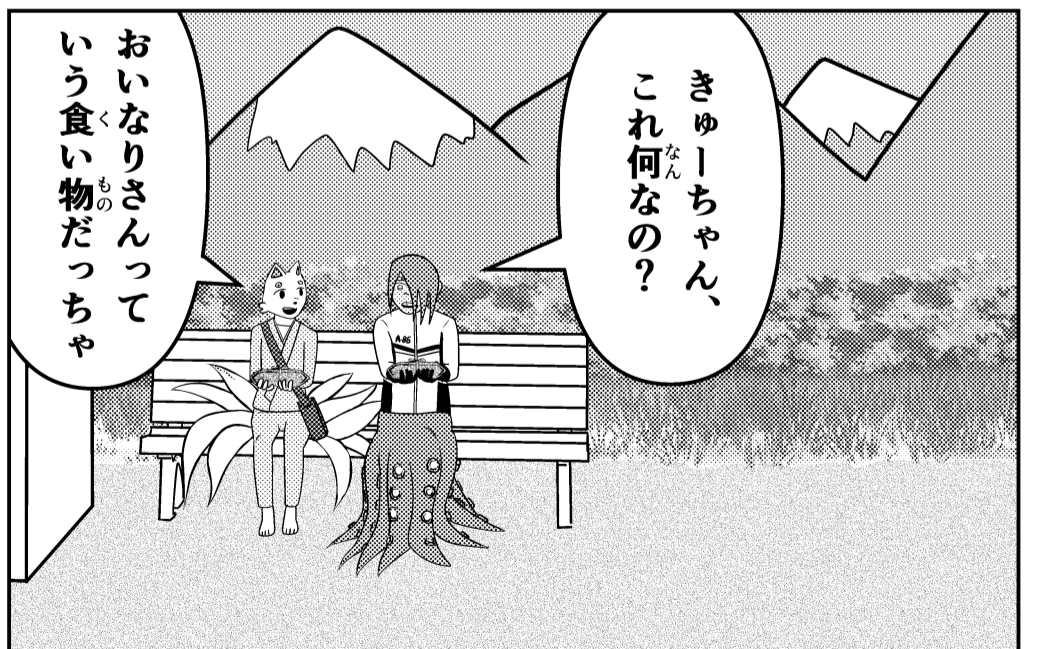
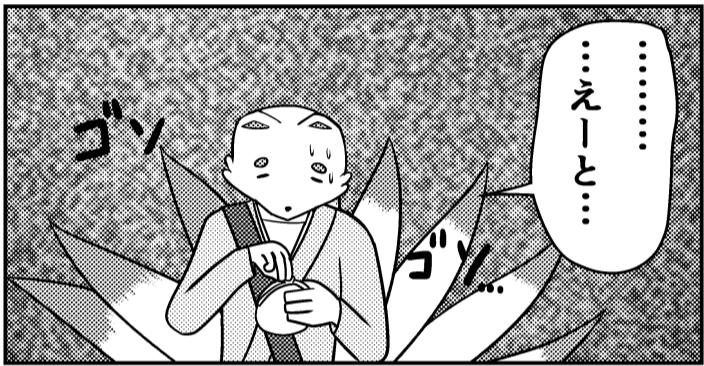
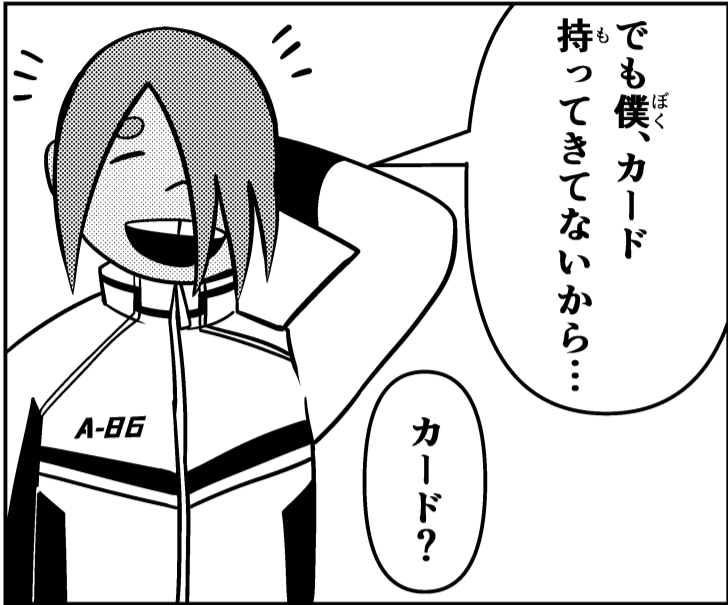


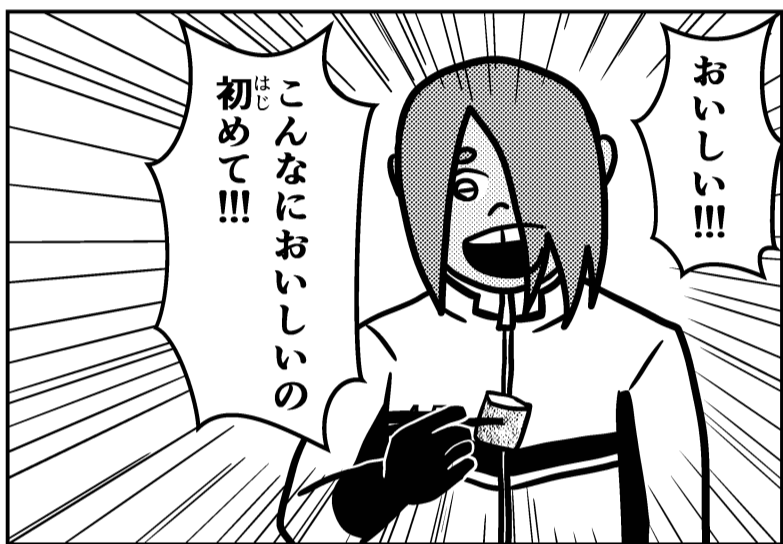
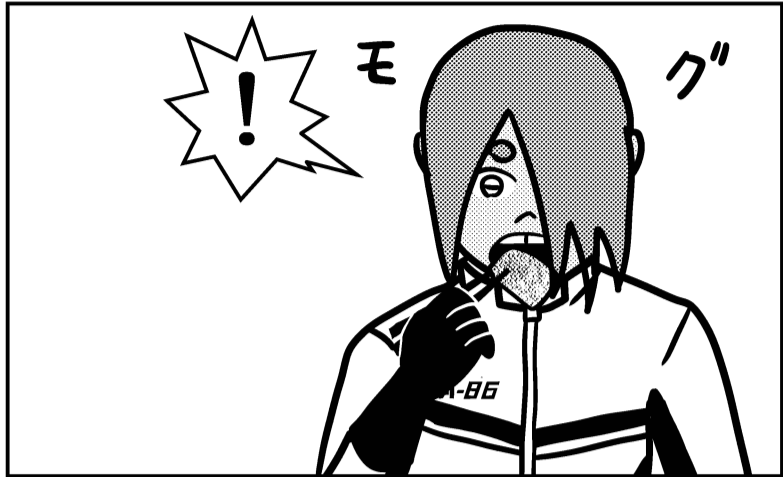


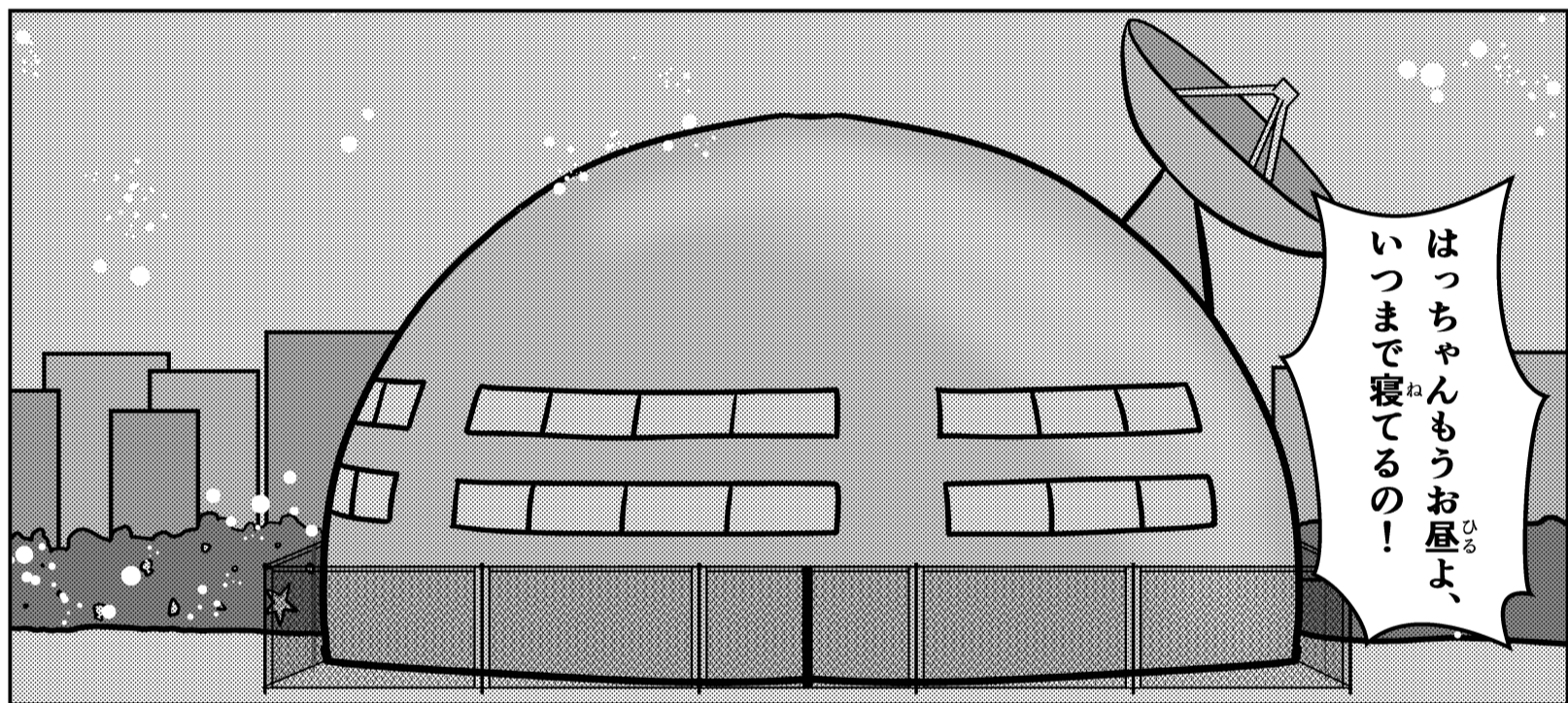
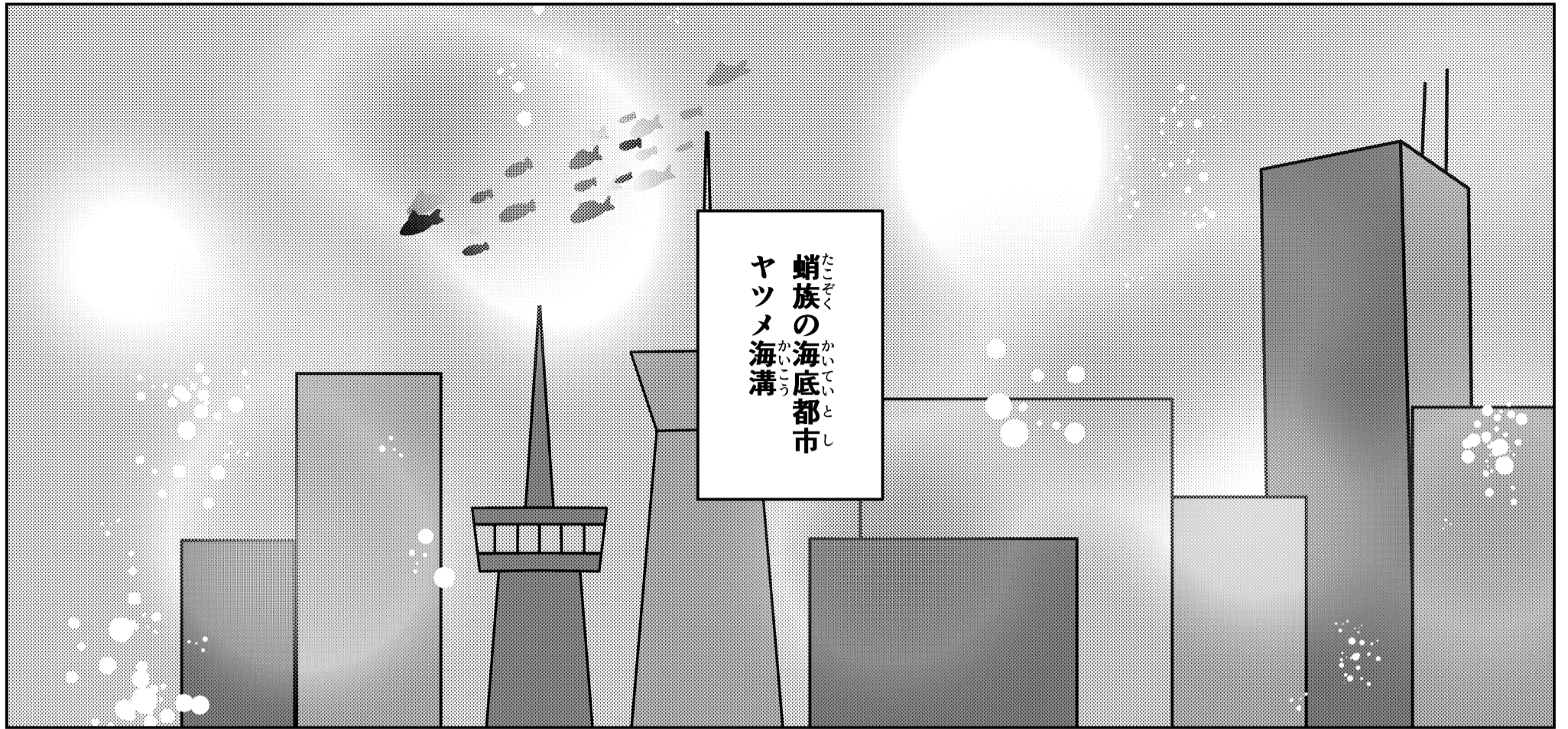


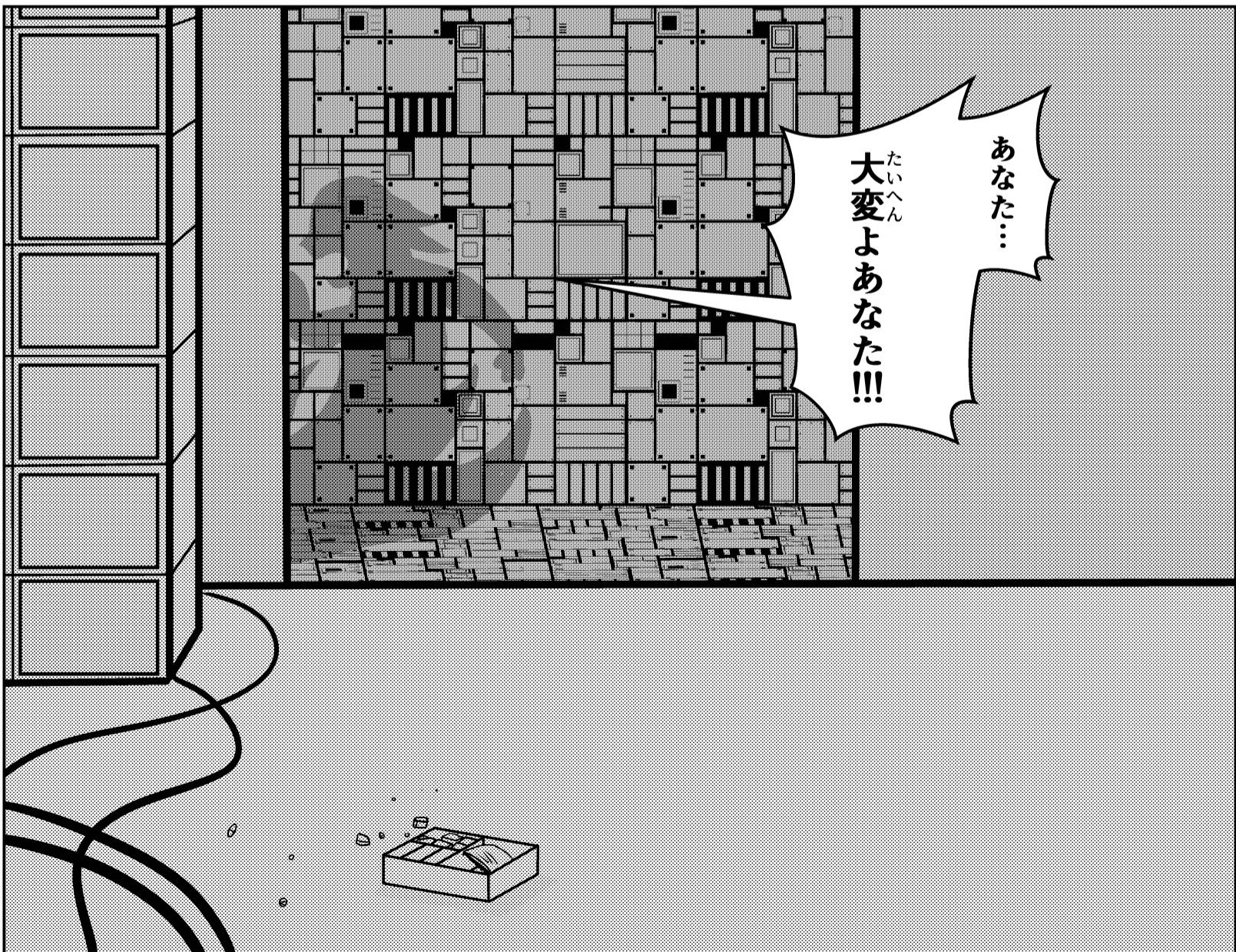
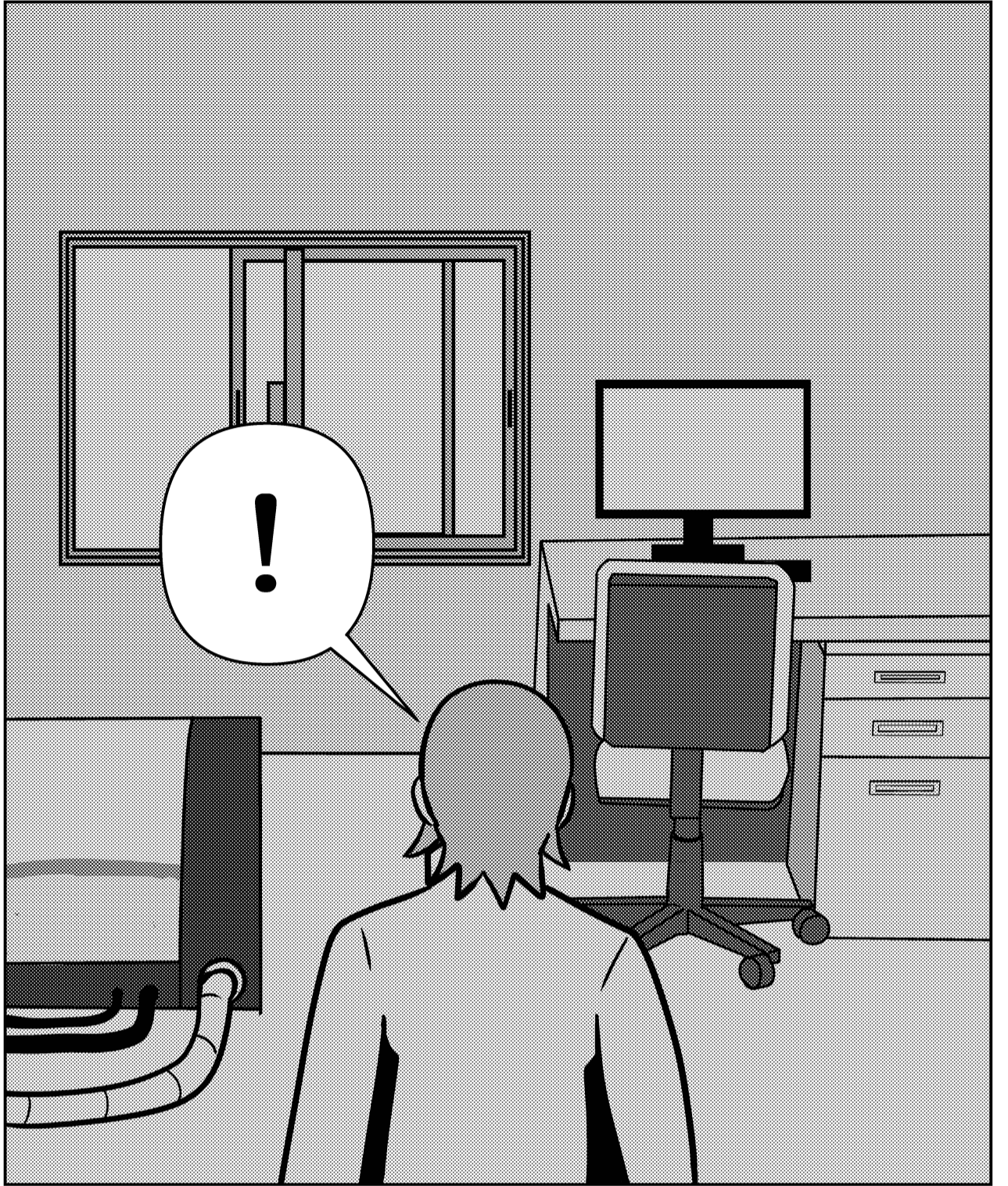


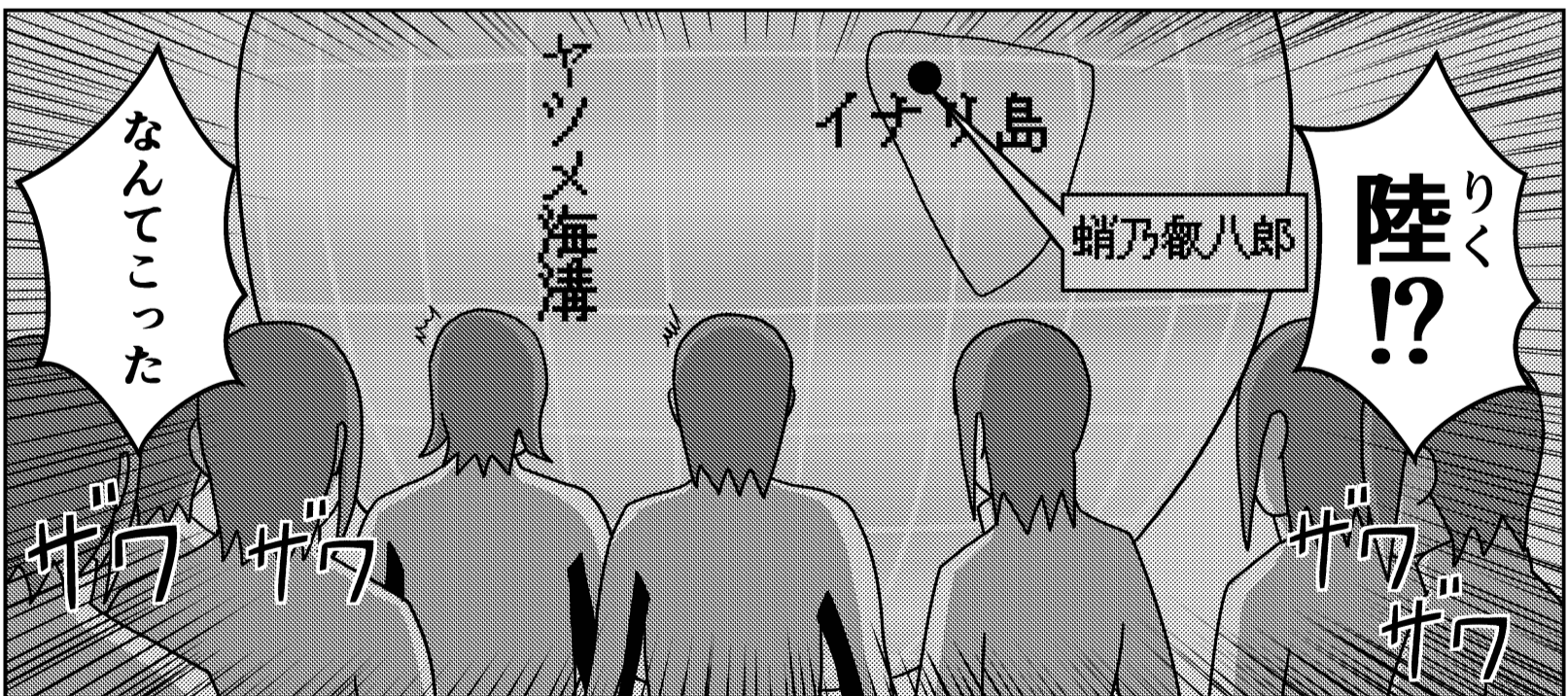
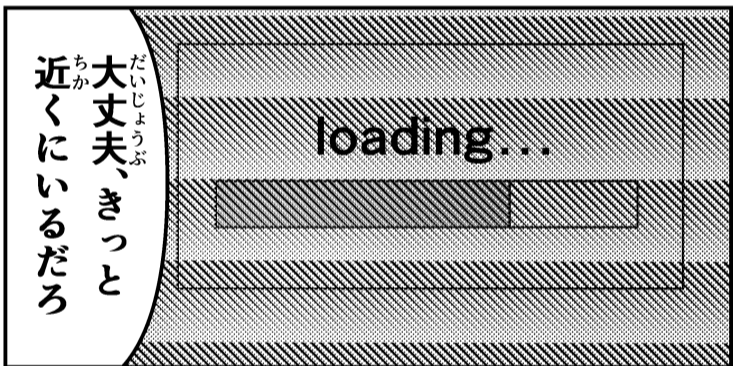
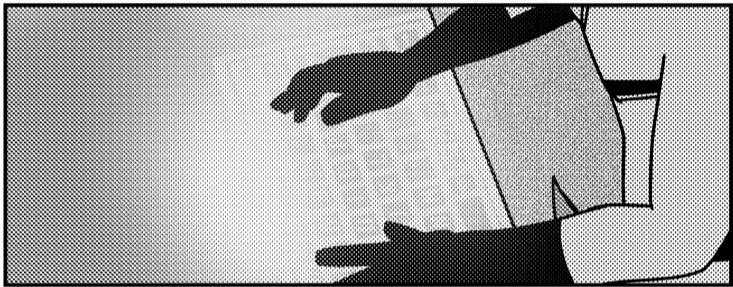
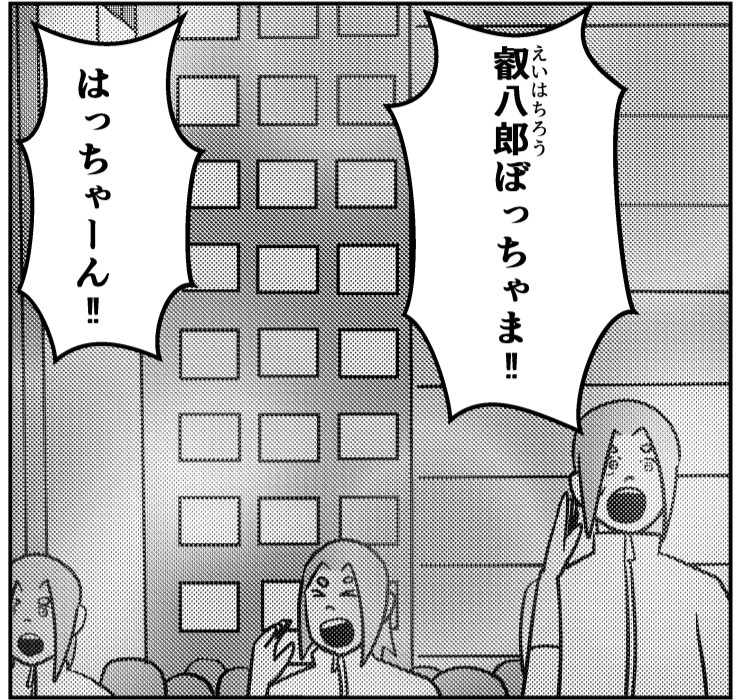




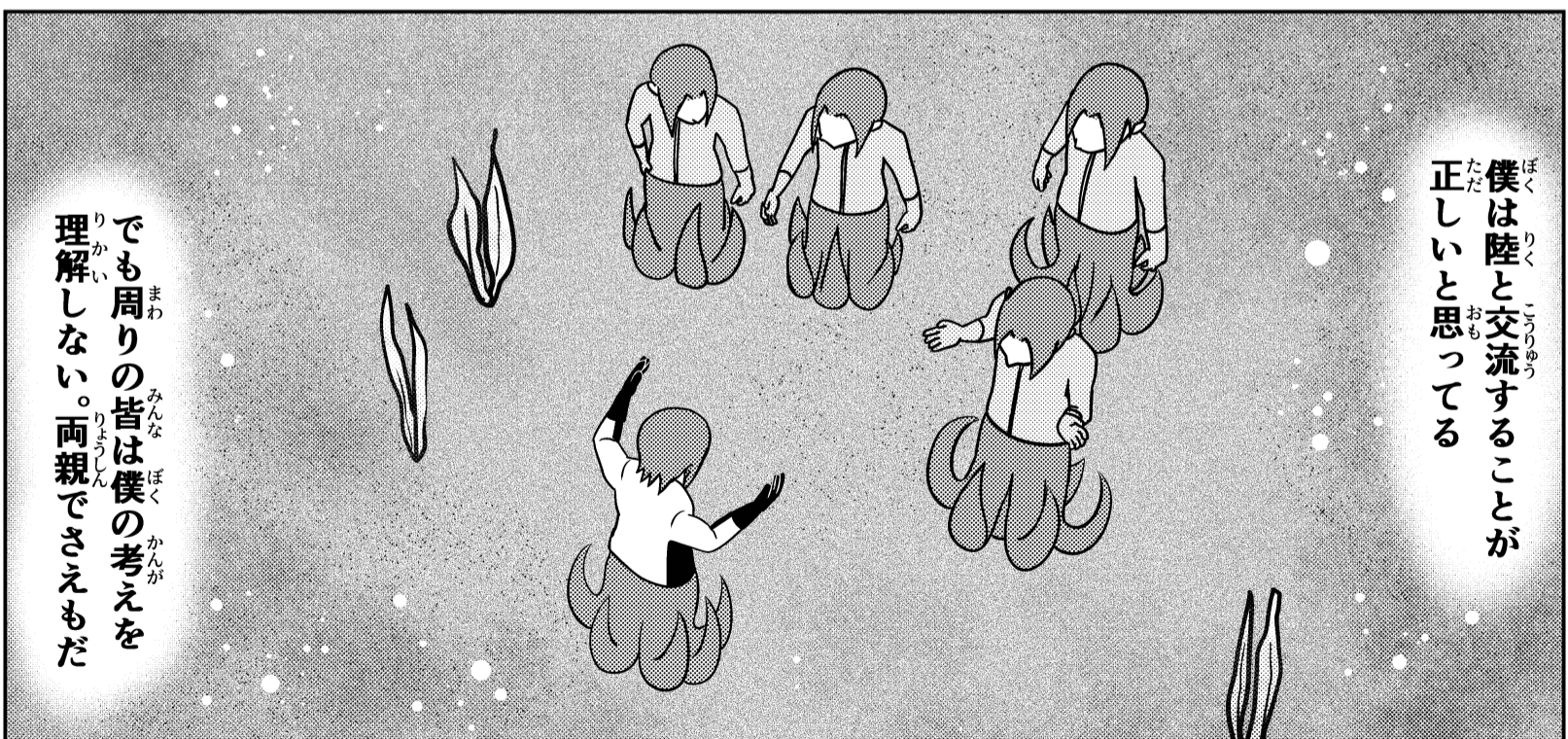
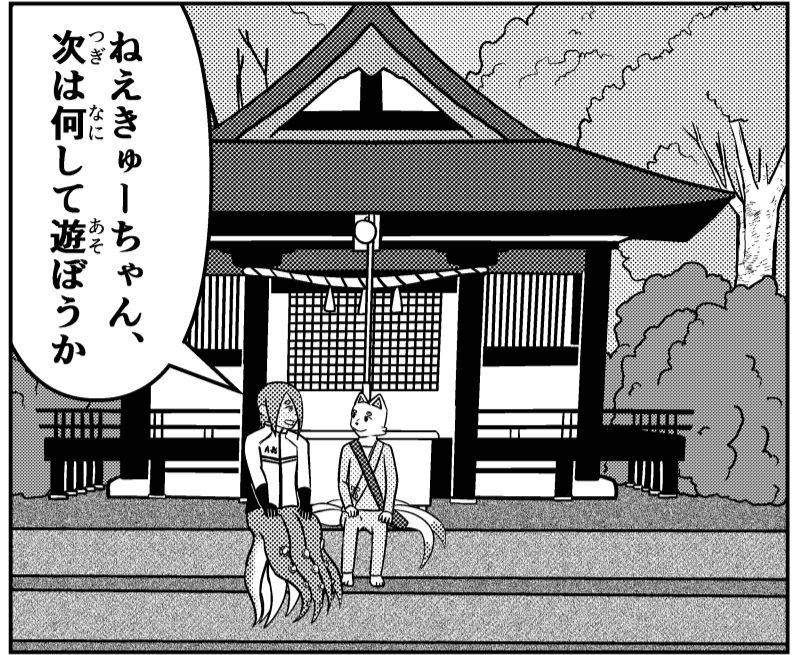


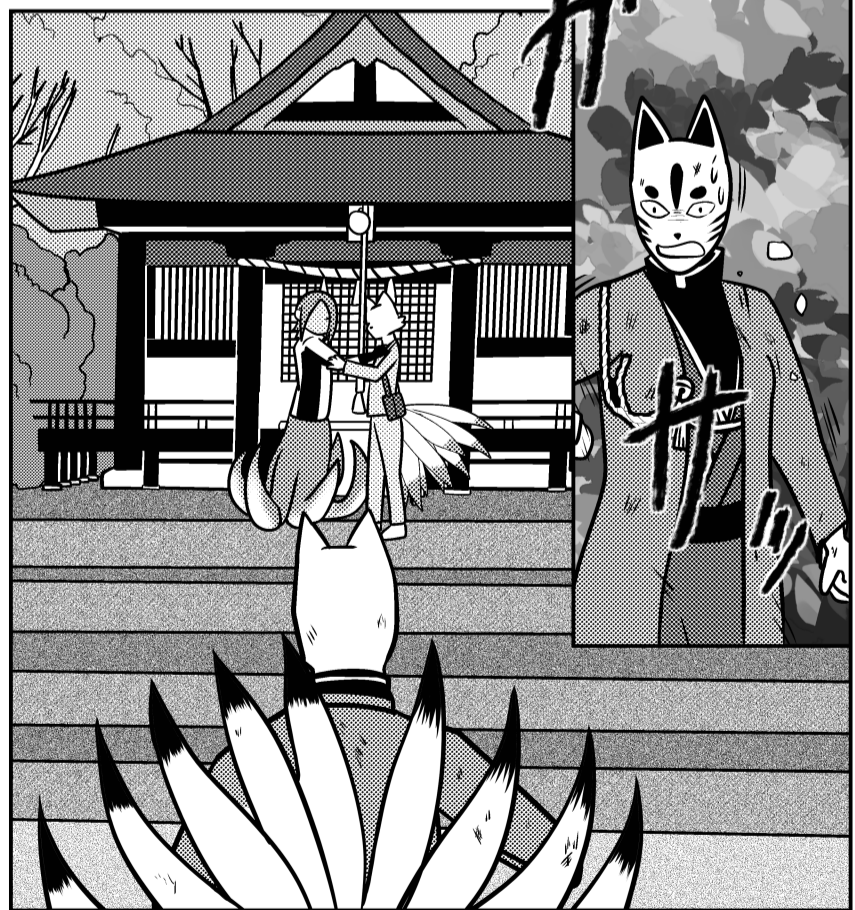
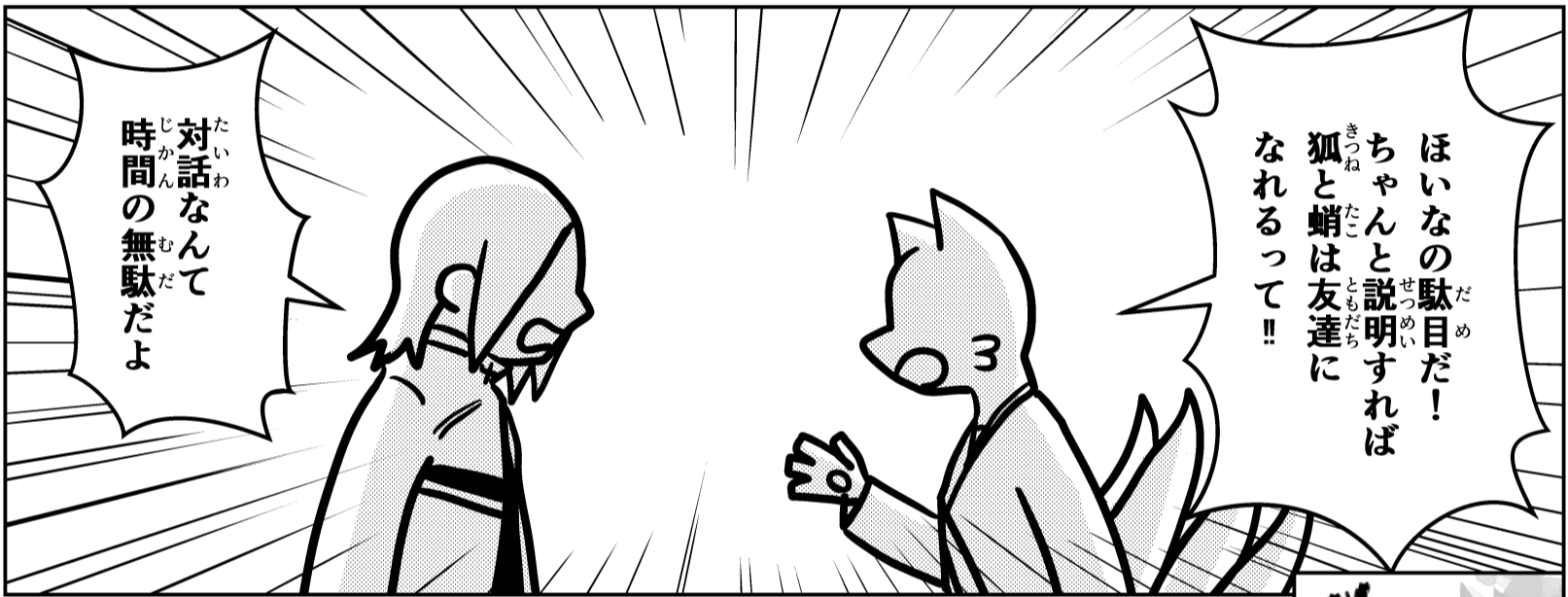
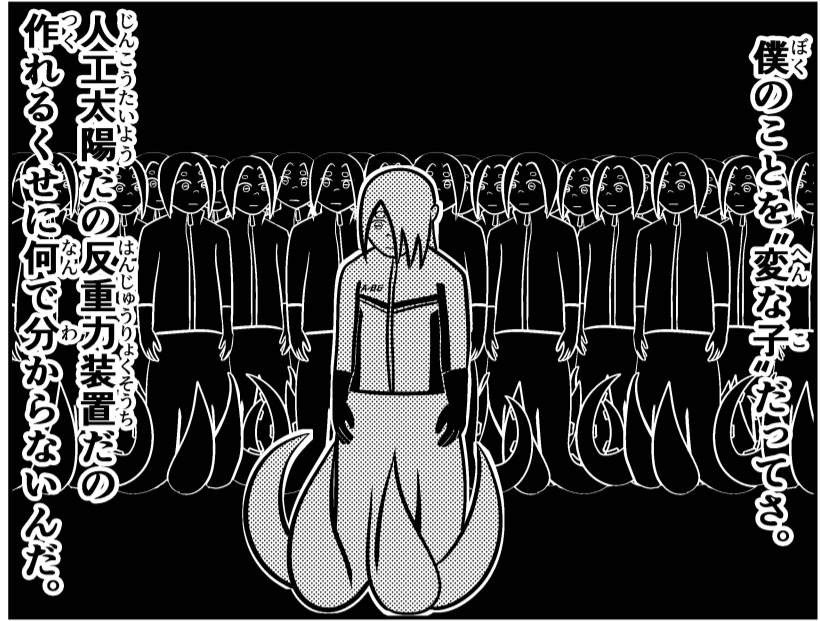


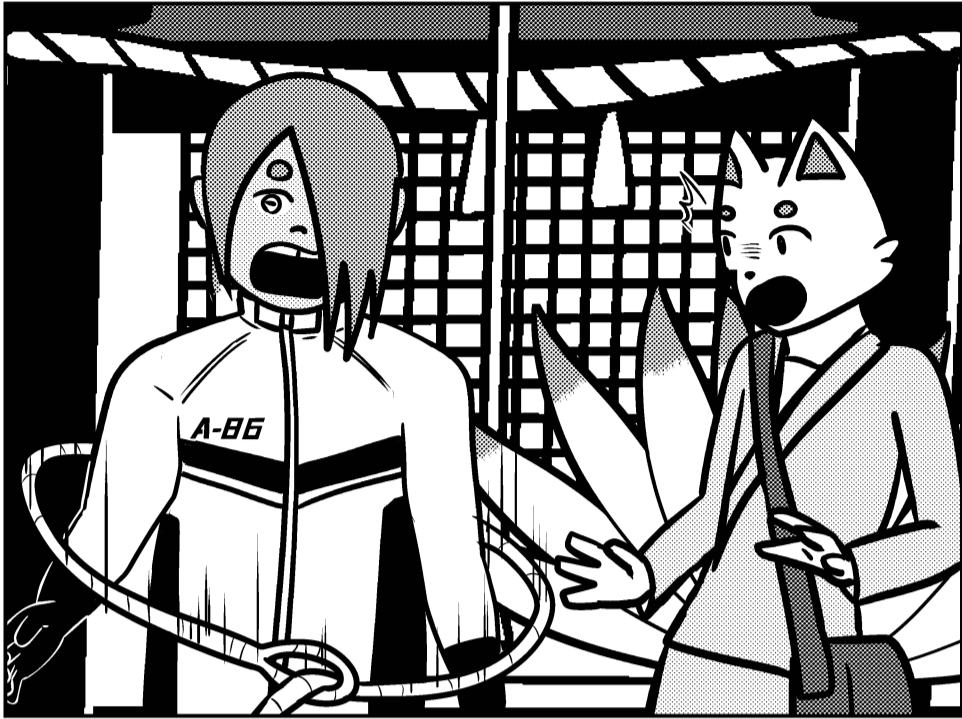




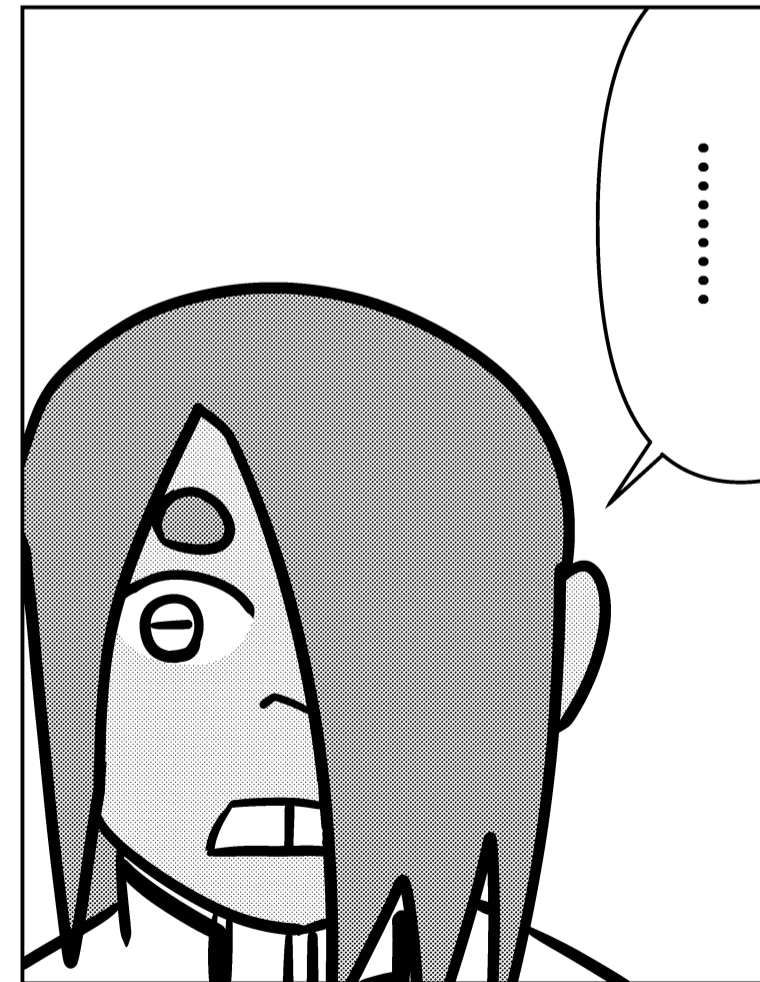




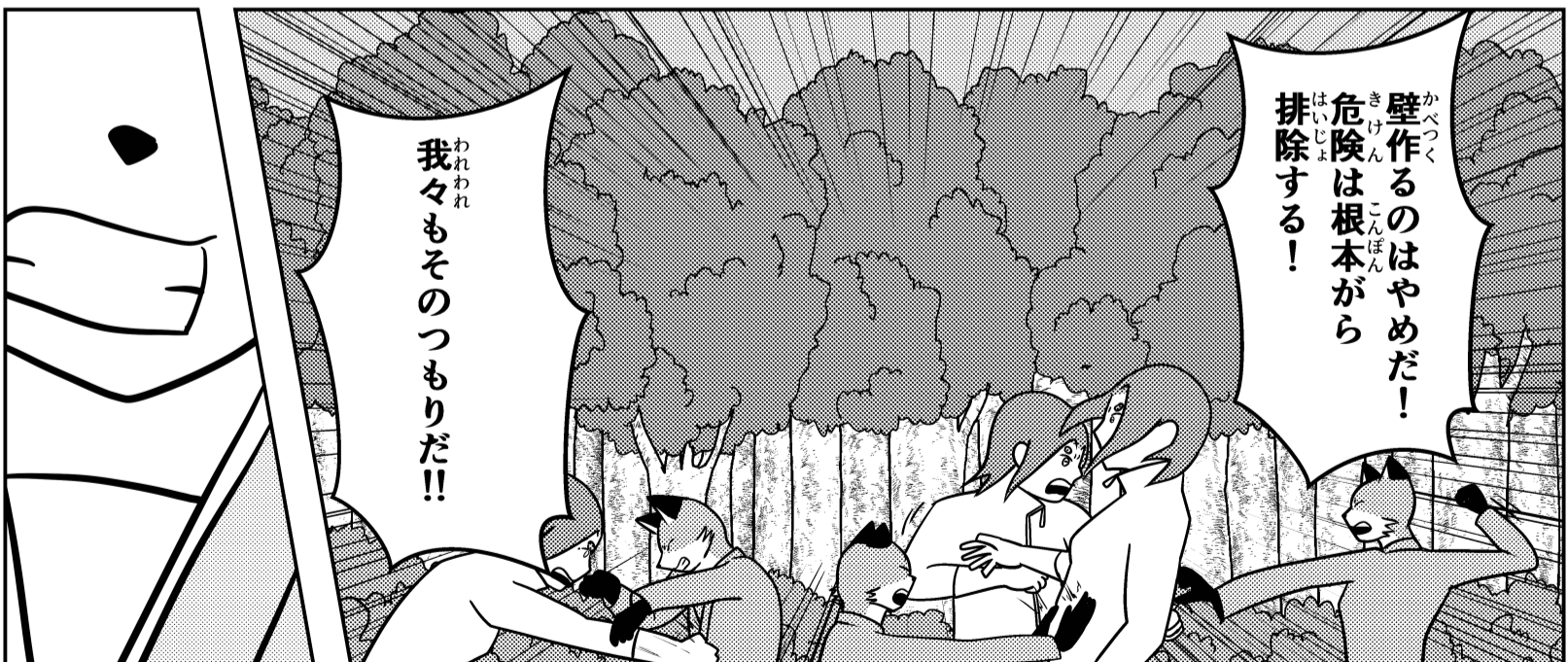


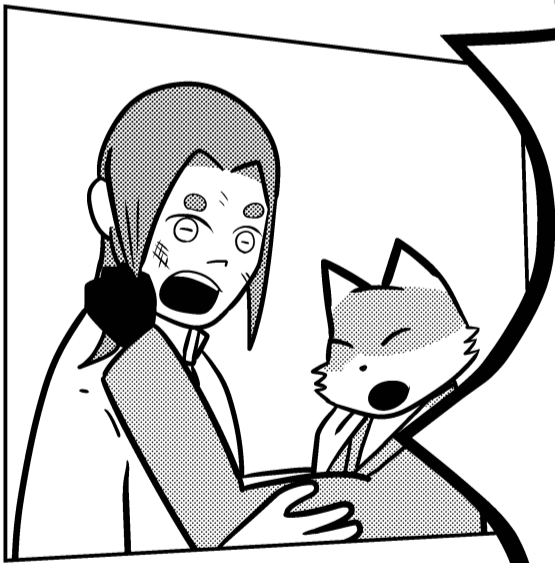
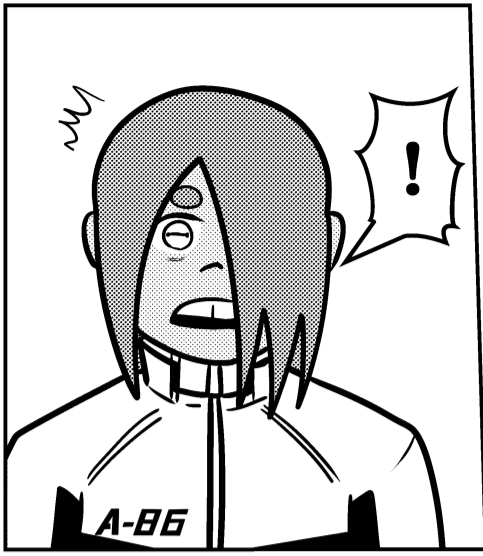






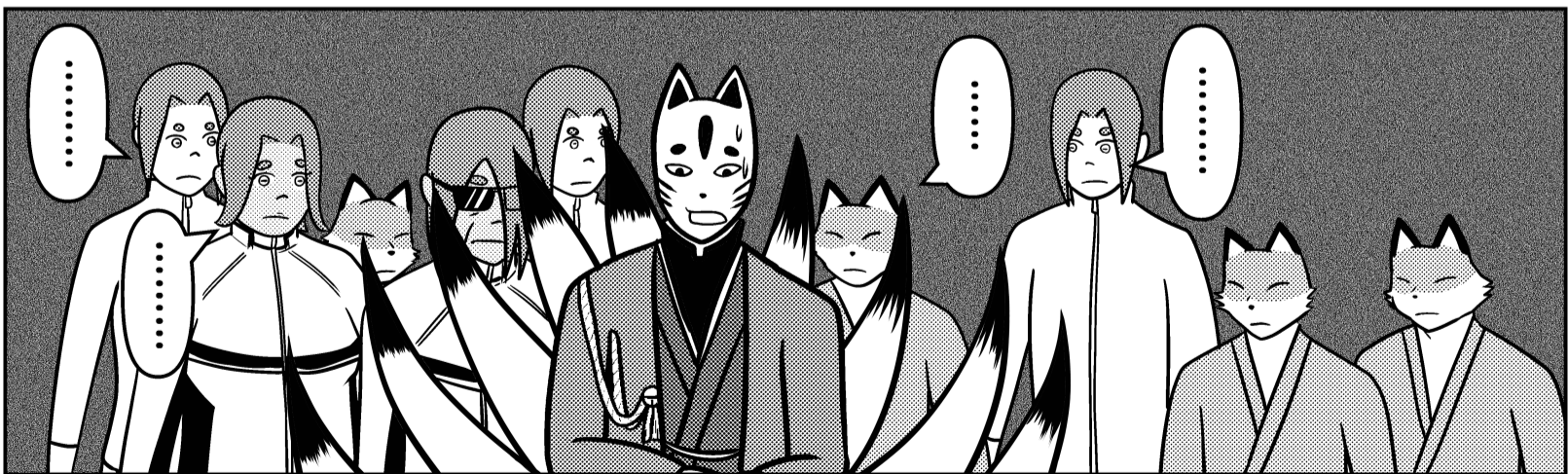
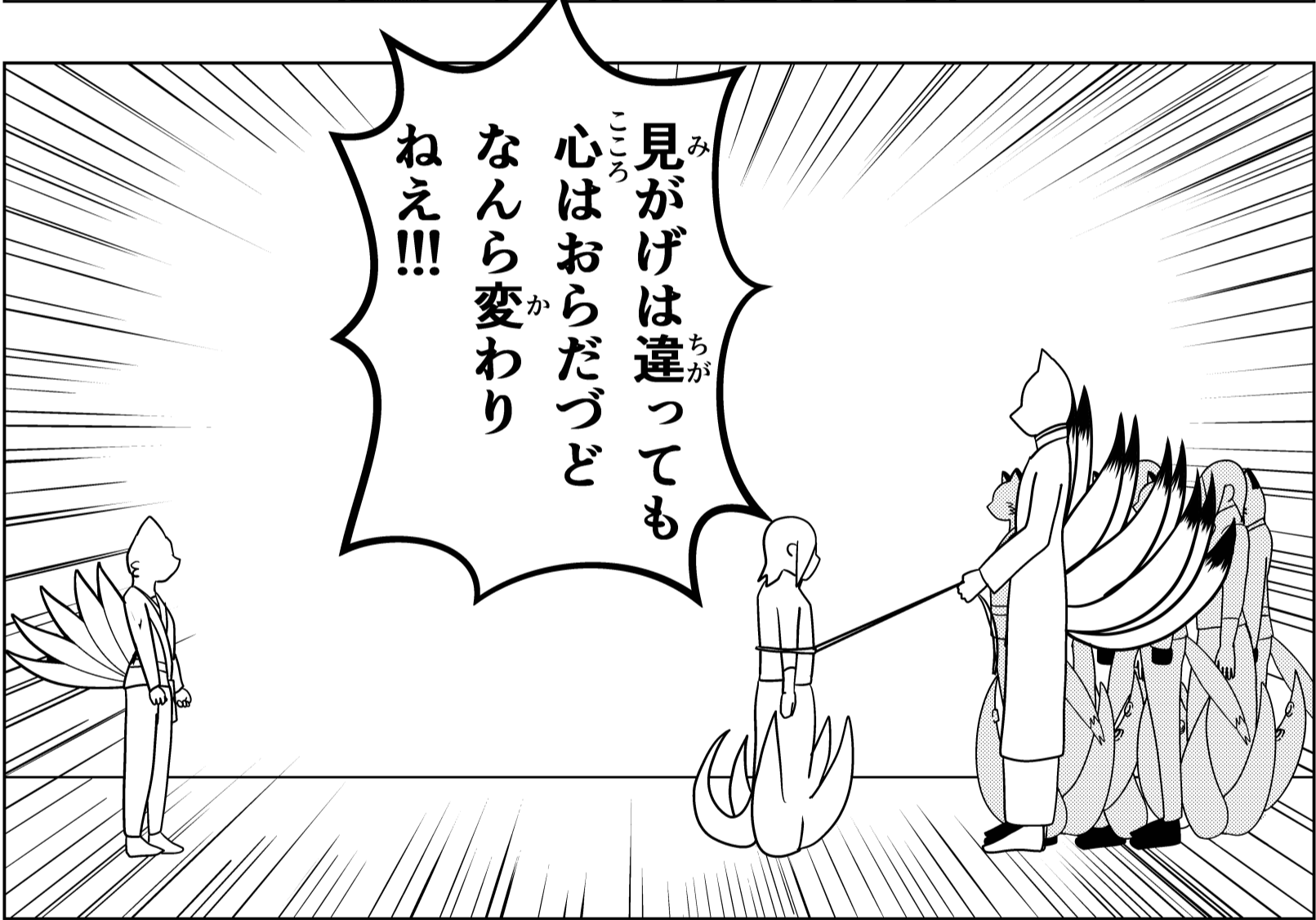






はな
はっちゃん
放せ!!!

はっちゃんは
ともだち
おらの友達だ!!!





きゅーちゃんのお父さん、
なんで蛸は危険だと思ふの？



いや…
おらはただ…

おめらの為さ正しい事
しだがつただけで…



僕達はそんな力
持ってないよ

狐だって大人達に
教えられた特徴とは
全然違う。



蛸は陸の生き物さ
海に引きずり込むと
言われでっからだ

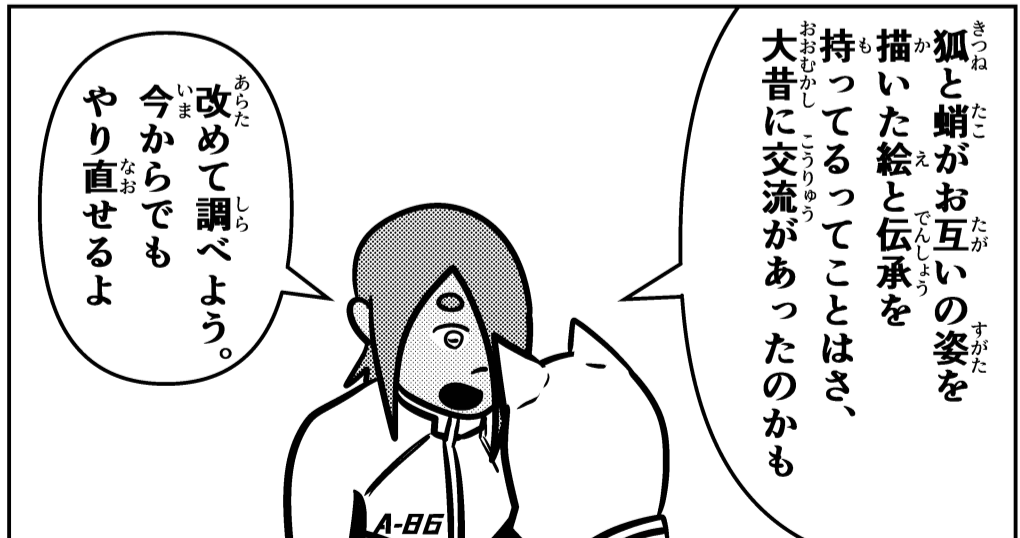
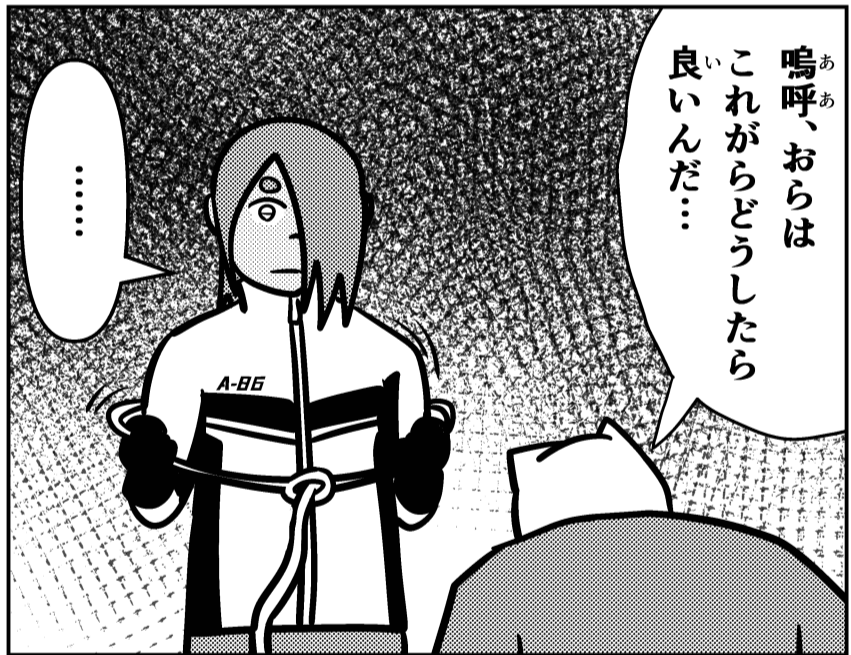
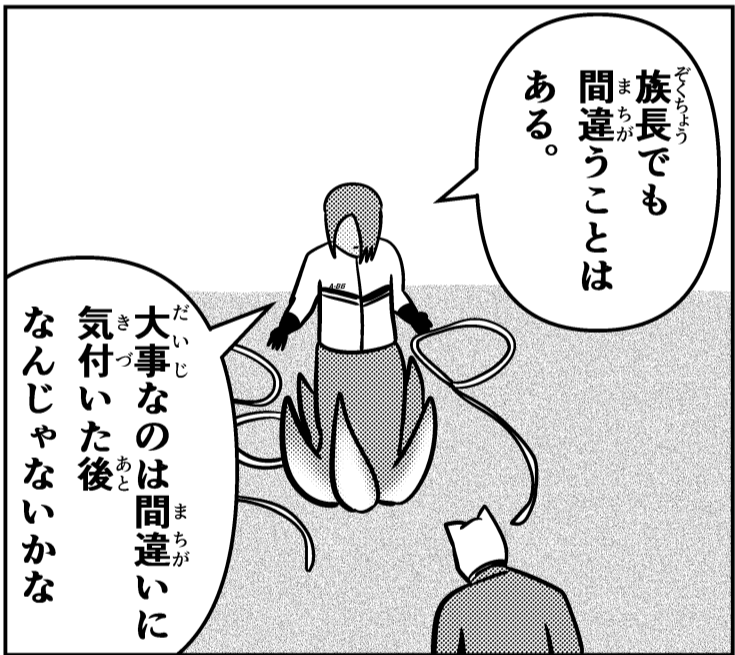
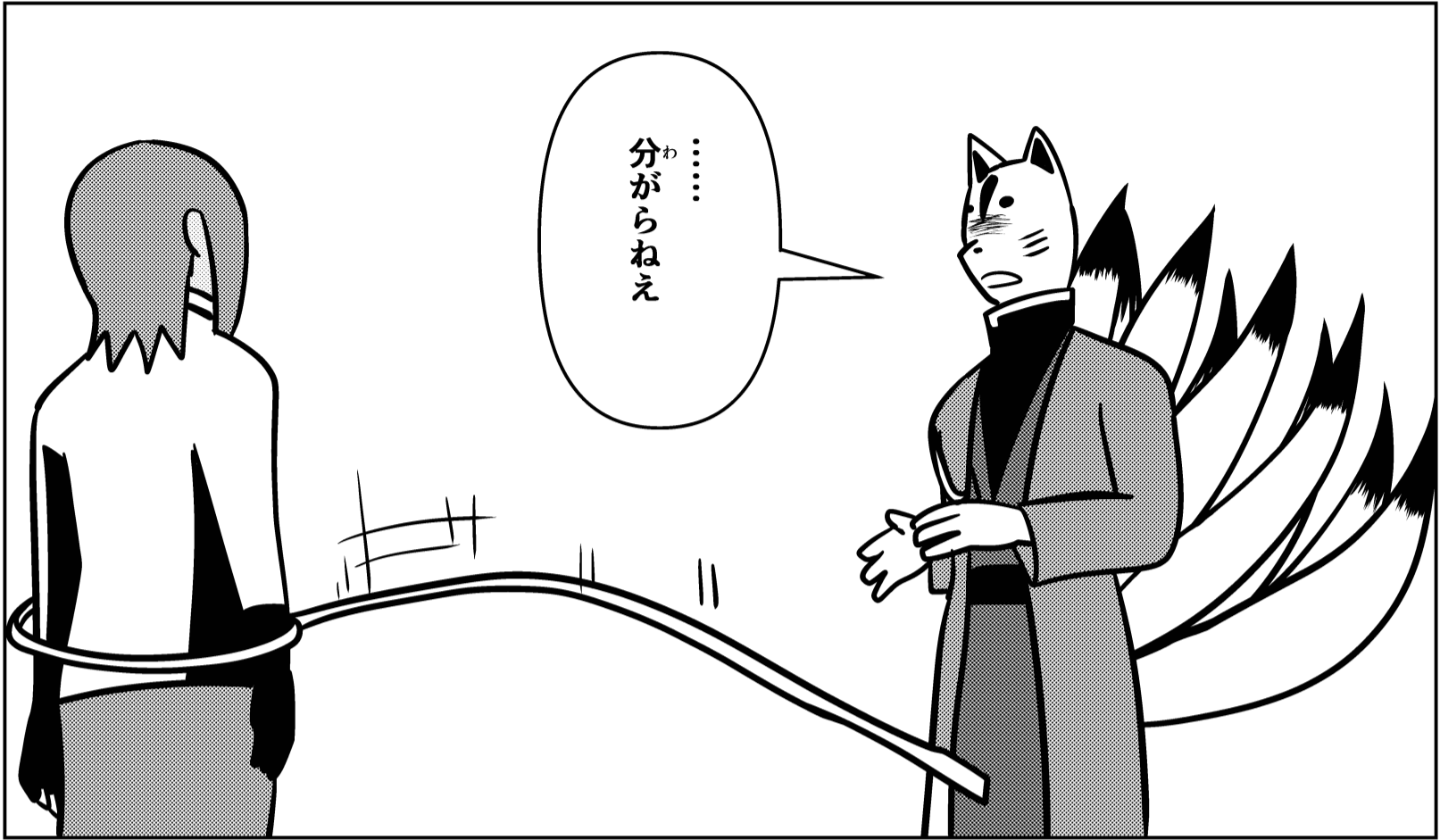


今までの常識が
間違いだったんだよ？
なんで危険だと思ふの？

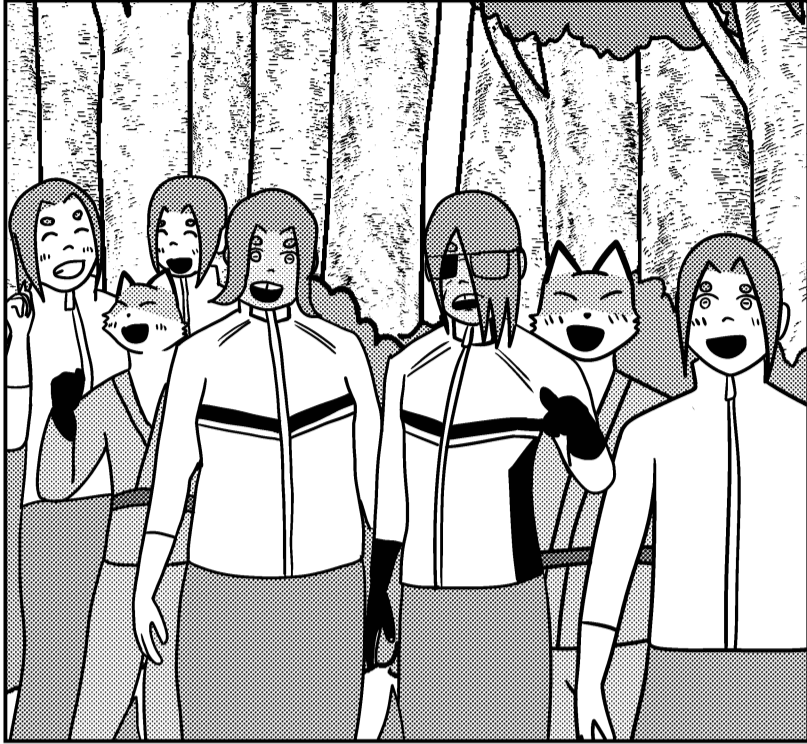


伝承よりずっと
かわいいし、
美味しい食べ物
作れるし…

んでも！
あんたらは
伝承では…







私達を止めてくれて
ありがとう。
これからうちの子を
よろしくね

もちろん!



ねえあなた…
きゅーちゃん
だったかしら?

んだ!

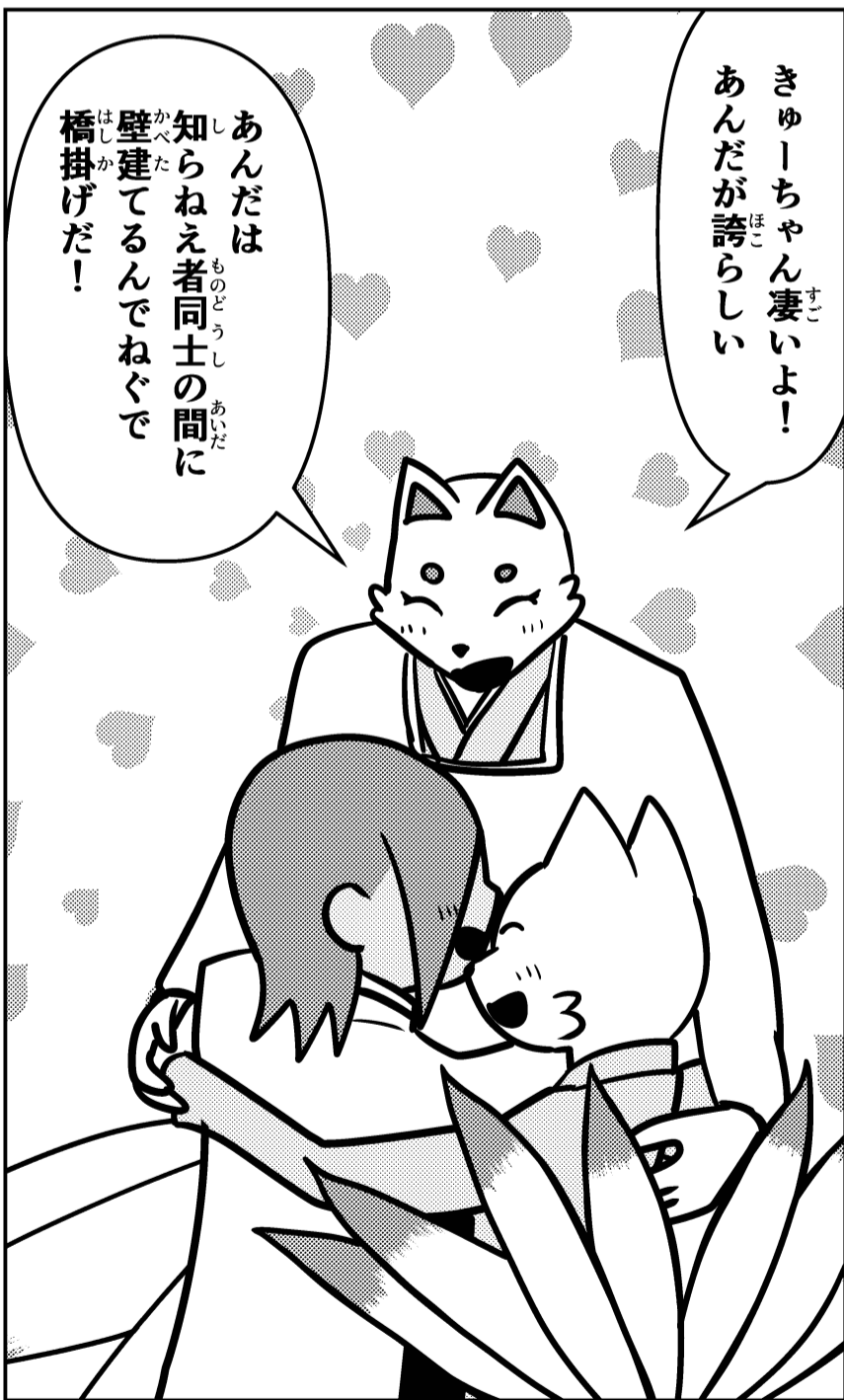
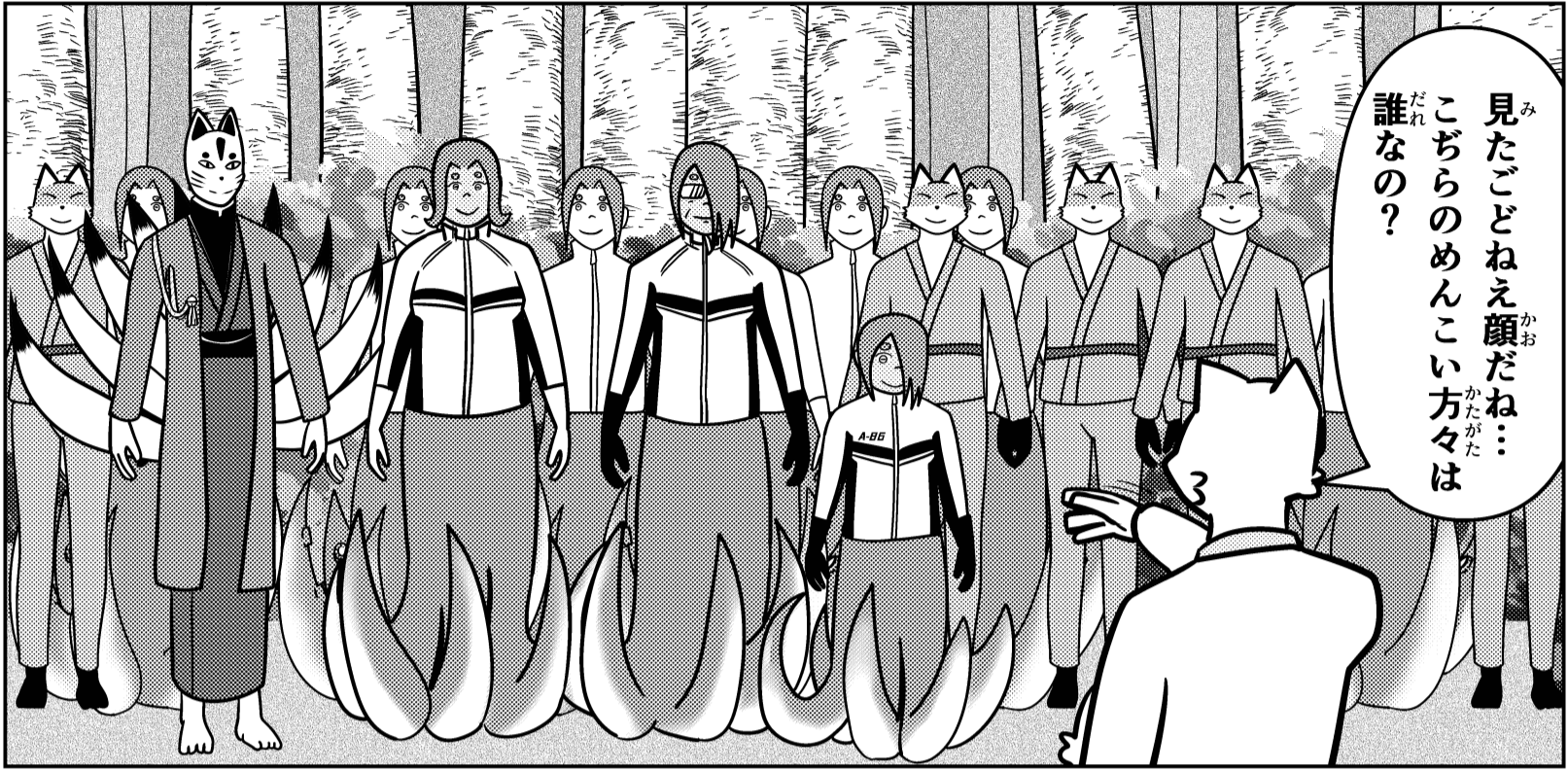


夕方になっても
戻らねえがら心配したよ。
それと…



かあ
母ちゃん!

あら、あんだら
こいな所に居だの?!



母ちゃん、はっちゃんと
もうちよっと
遊んでたいよ。

僕もだよ。
いいでしょ、
パパ、ママ

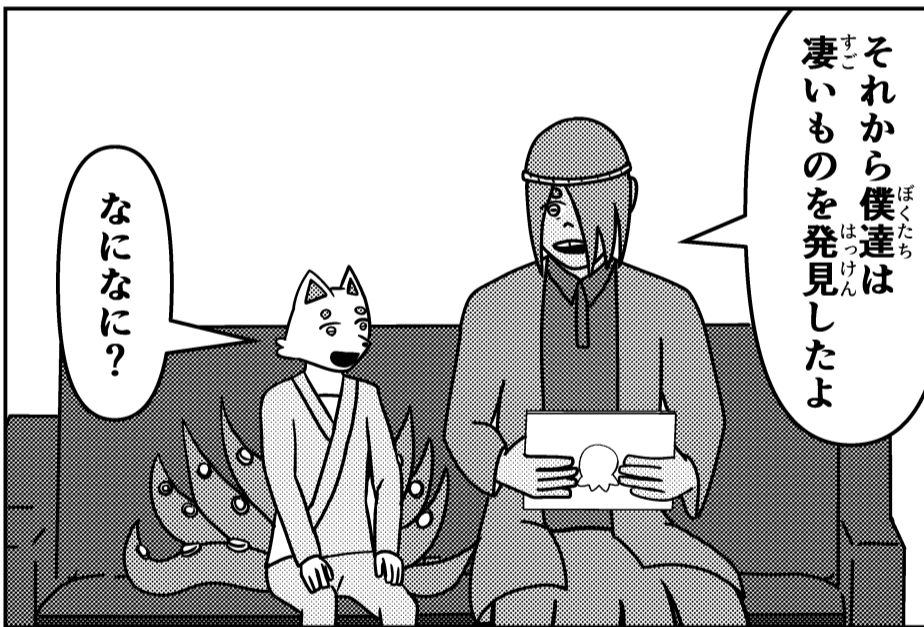
そうね…
今日はもうちよっと
遊んでいいわよ





そのあと皆は
どうなったの？

パパ、



なになに？

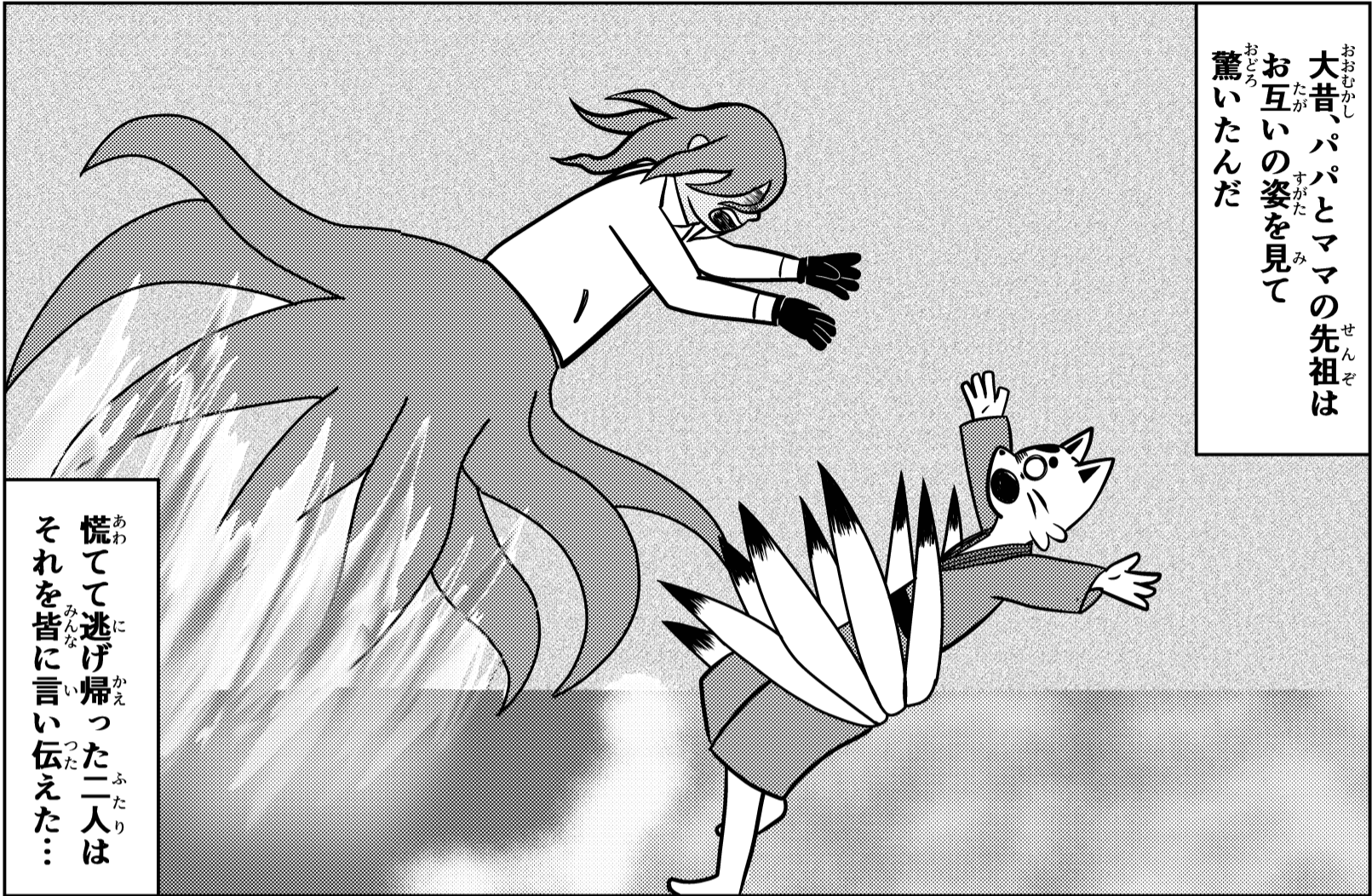
それから僕達は
妻いものを発見したよ



壁の建設は無くなって
狐と蛸は交流を始めたんだ。



狐と蛸が初めて
出会った記録だよ。



おおむかし
大昔、パパとママの先祖は
お互いの姿を見て
驚いたんだ

慌てて逃げ帰った二人は
それを皆に言い伝えた：



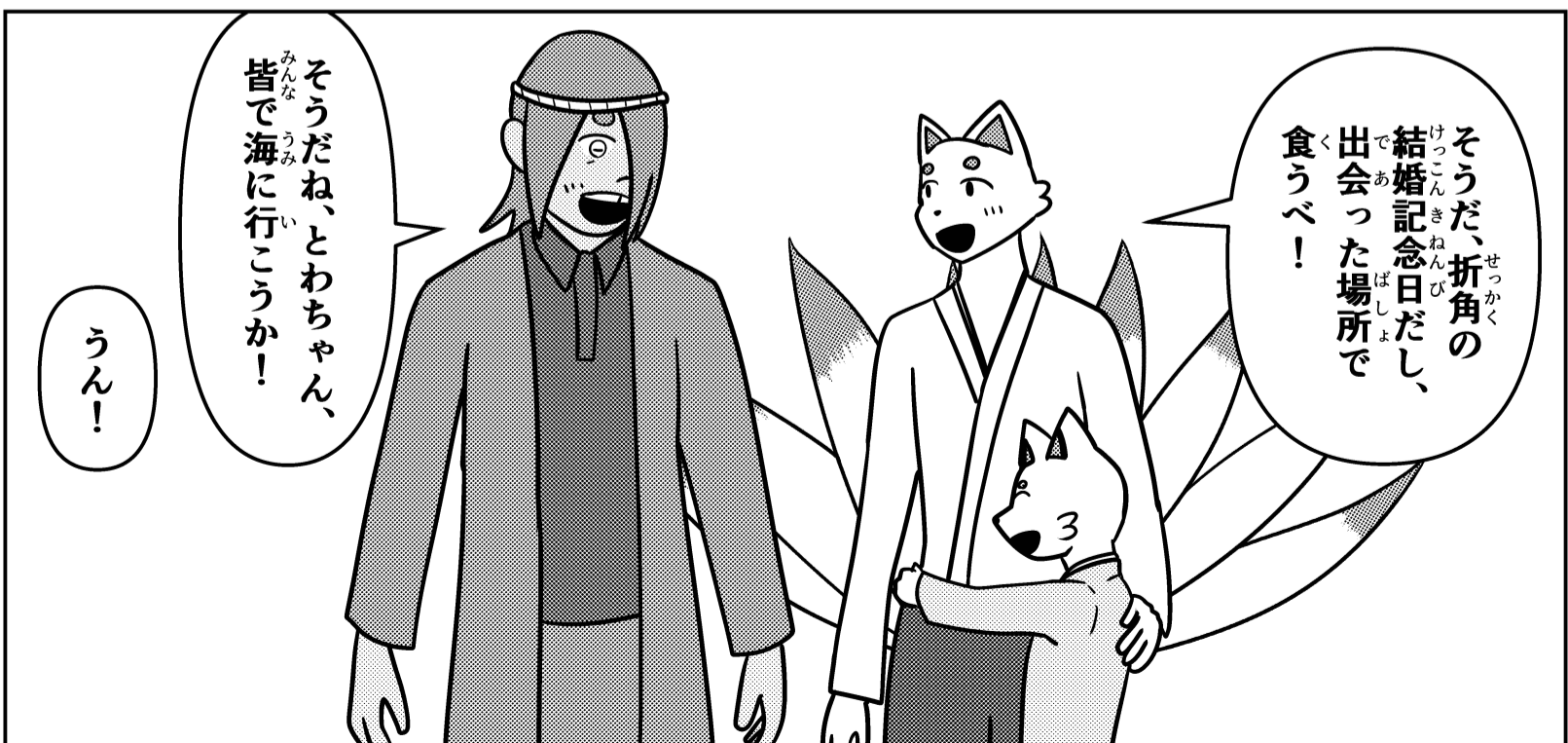
やったあ！
十和子おいなりさん
大好き！

はっちゃん、
とわちゃん、
おいなりさんでござだよ！



そうなんだ

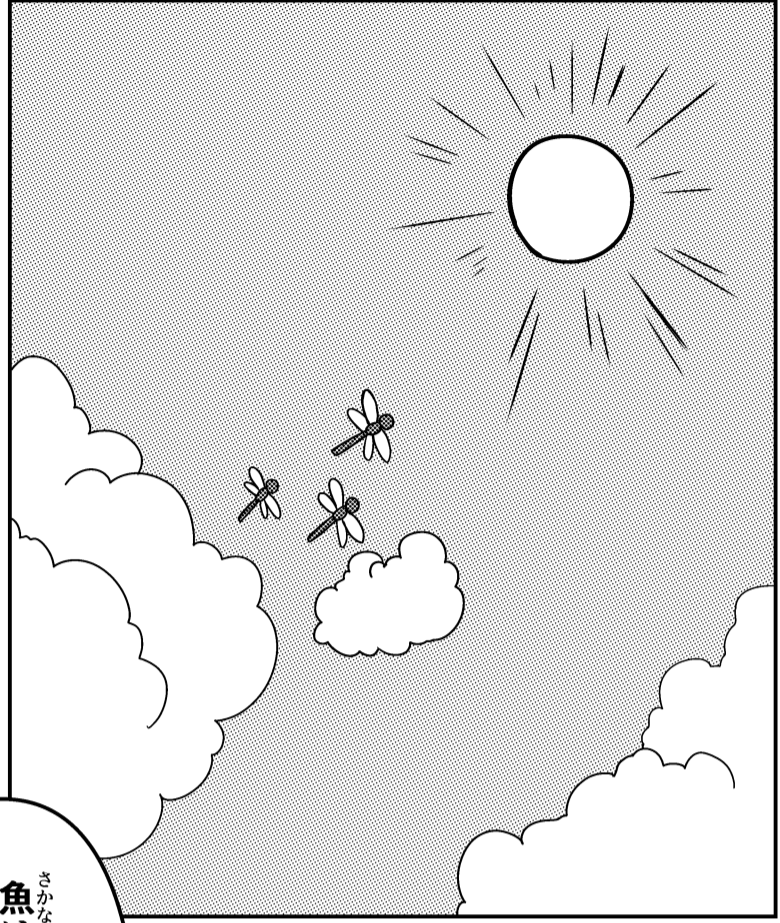
そして人づてから聞いた話には
尾ひれがついて事実と全然
違う絵がでさちやっただ



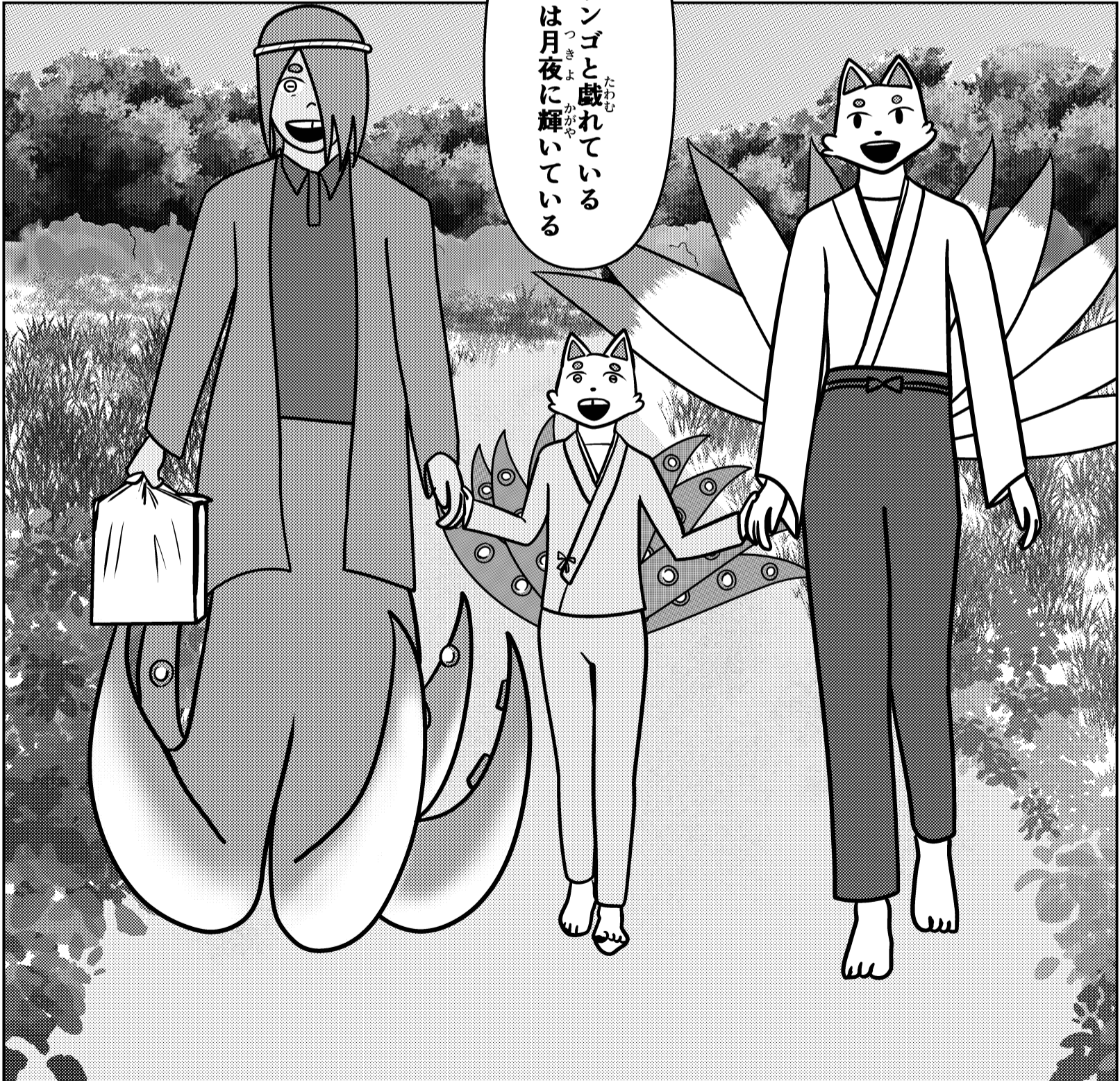
うん！

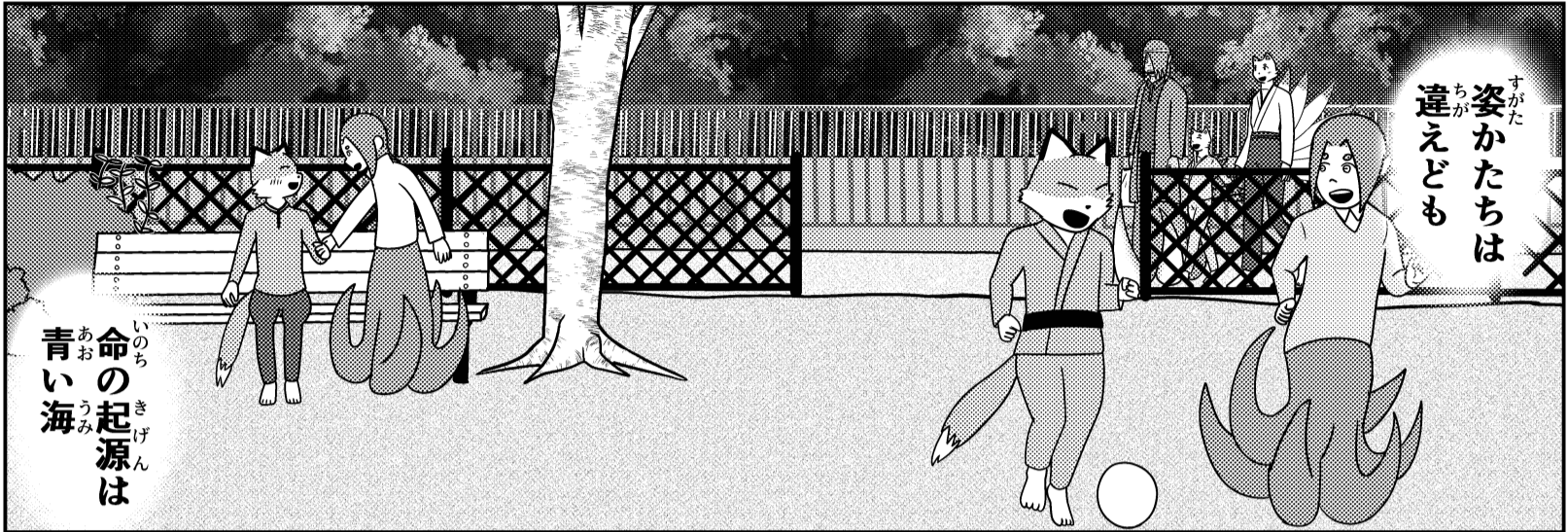
そうだね、とわちゃん、
皆で海に行こうか！

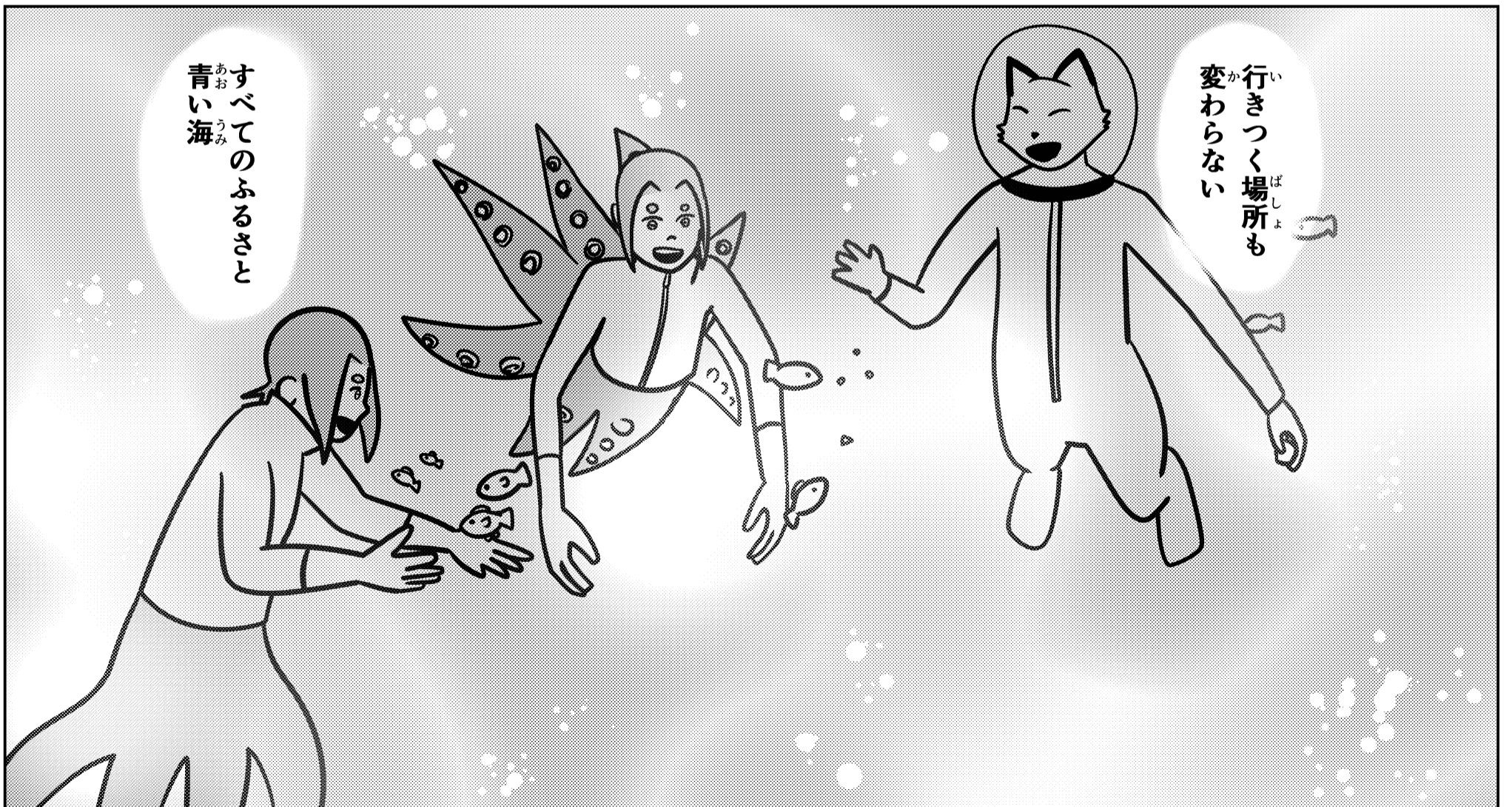
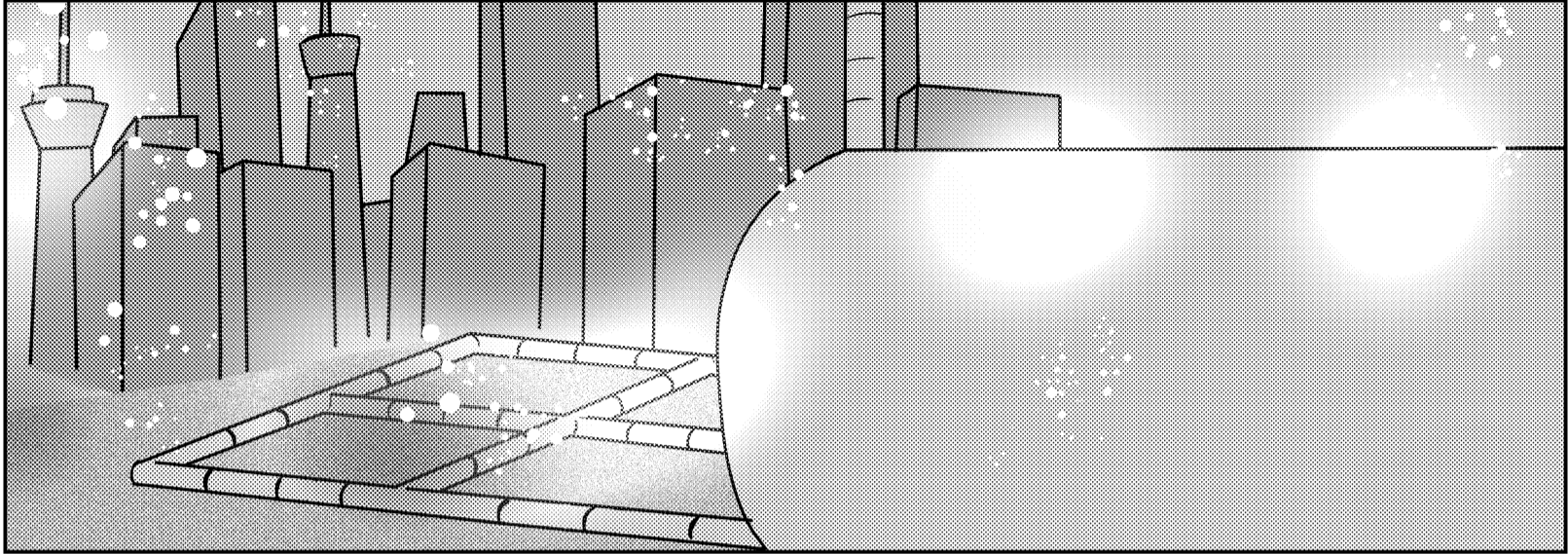
そうだ、折角の
結婚記念日だし、
出会った場所で
食うべ！

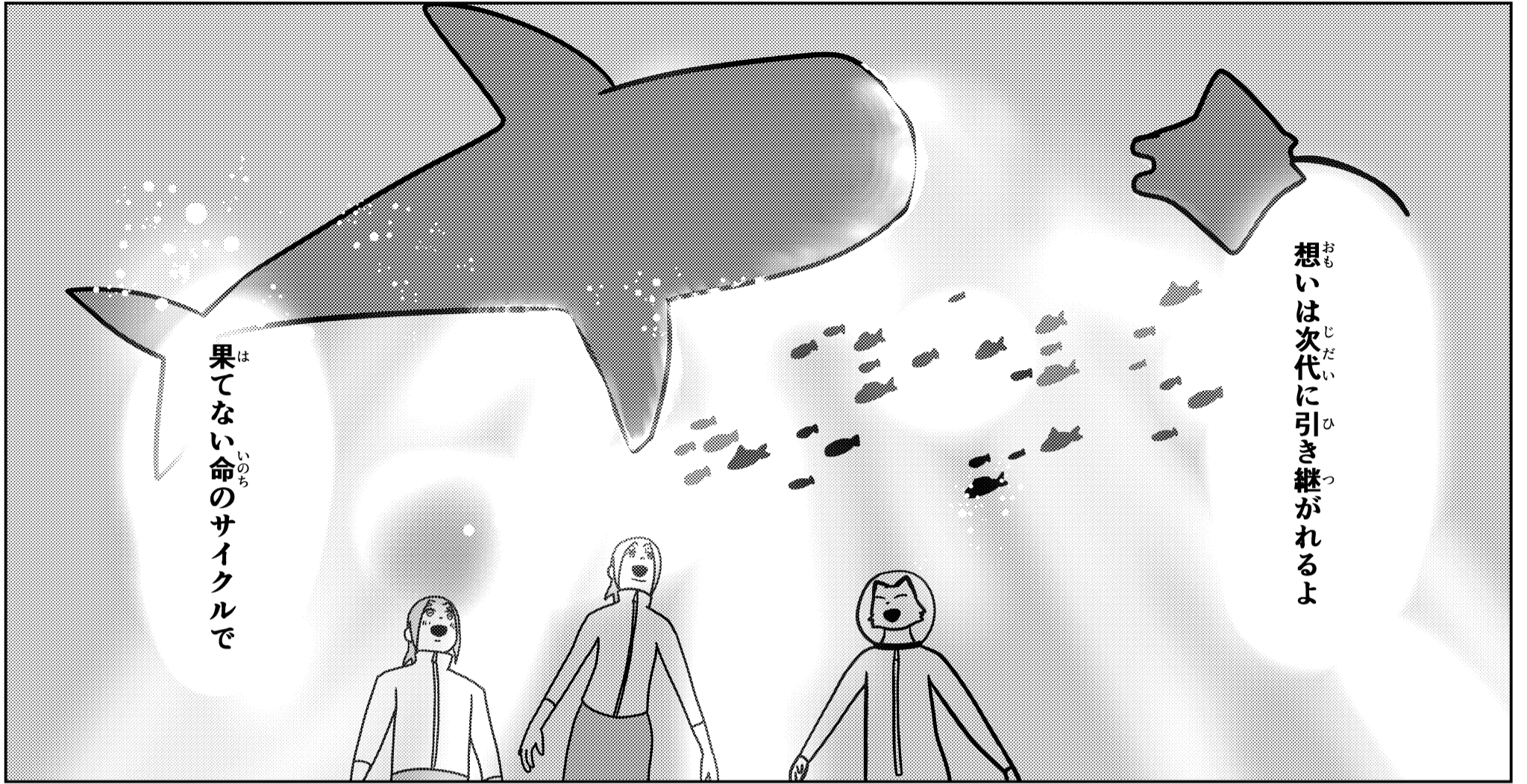


魚はサンゴと戯れている
クラゲは月夜に輝いている



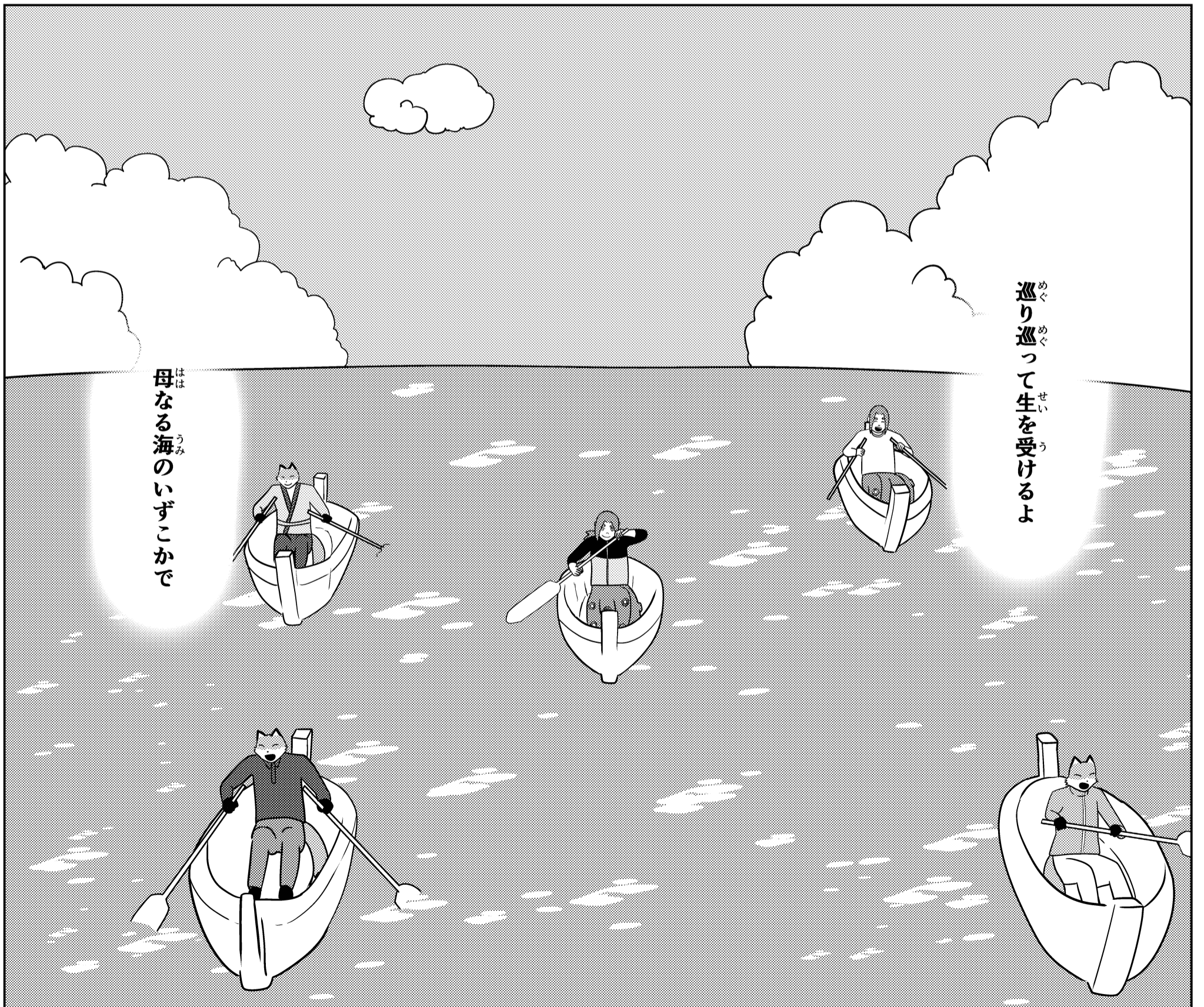






果てない命のサイクルで

想いは次代に引き継がれるよ



母なる海のいずこかで

巡り巡って生を受けるよ

